

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

和歌山県

自治体名：和歌山県

担当課名：健康体育課

電話番号：073-441-3700

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	4,724.68 km ²
人口	884,627 人
公立中学校数	125 校 (分校及び義務教育学校後期課程、特別支援学校を含む)
公立中学校生徒数	20,076 人
部活動数	1,112 部活
都道府県の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
都道府県の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

地域連携・地域移行における都道府県の現状・課題

1 本県の現状と課題について

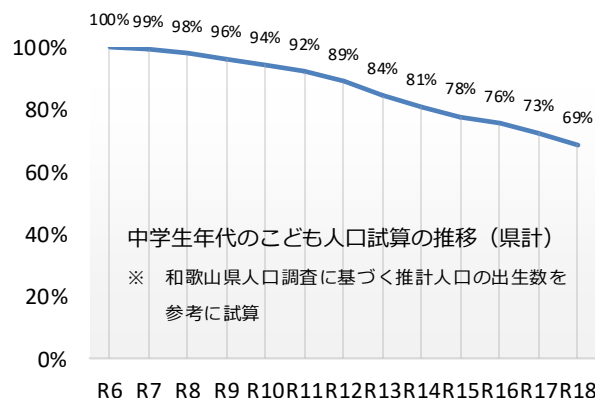
和歌山県人口調査に基づく推計人口の出生数を参考に中学生年代のこどもの人口推移を試算したところ、令和18年度には中学生年代のこどもの人口が令和6年度の約69%になることが見込まれる。地域によっては令和6年度と比較すると30%台まで減少が想定される市町村もあり、少子化の更なる進展を危惧している。

また、人口減少の実態もあり、市町村単独で中学生のスポーツ環境を維持していくことが困難となることが予想される自治体もあることから、広域的な取組が必要となる。

2 県立中学校について

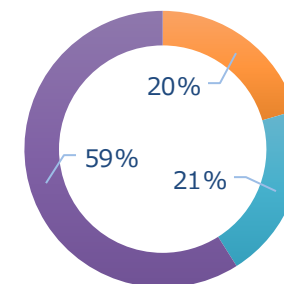
本県において県立中学校5校には合計960人の生徒が在籍し、56部の運動部で553人が活動している。

令和6年6月に実施した県立中学校5校の生徒、保護者及び教職員へのアンケート調査では、約59%の教員が専門性を有しない競技の部活動指導業務を担当している実態があることが分かった。また、同アンケート調査から、生徒、保護者とも部活動の地域移行への期待として、専門性を有する指導者による指導を挙げている。



現在担当している部活動について、自身の経験の有無について

- 競技(活動)経験がある
- 競技(活動)経験はないが、過去に指導経験がある
- 競技(活動)経験も指導経験もないが、現在指導している

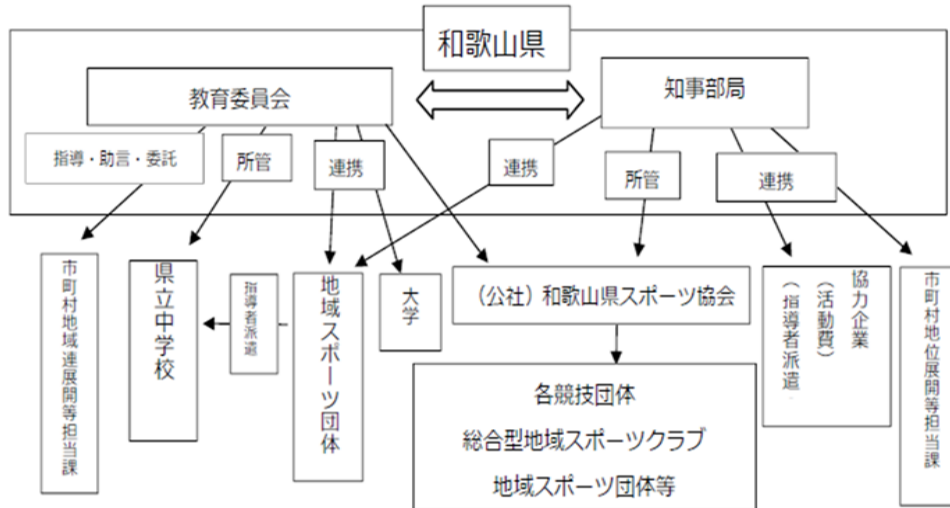


令和6年度県立中学校教職員への部活動の地域移行に関するアンケート調査

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（都道府県における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・ 県協議会の運営（方針の改善・現状把握） ・ 各市町村における協議する場の設置要請
- ・ 実証(国費)事業に係る業務（実施市町村の参画） ・ 部活動指導員の配置促進
- ・ 部活動指導者等に対する研修会の開催 ・ 地域移行に向けての窓口（学校や市町村教育委員会からの問合せ）
- ・ 市町村説明会等の企画立案・運営 ・ 広報活動
- ・ 知事部局との緊密な連携（情報共有）

◎首長部局

- ・ 運営団体（総合型地域スポーツクラブや、競技団体等）との連携（連絡調整）
- ・ 運営団体への支援検討 ・ 地域移行に向けての窓口（地域クラブや民間団体等からの問合せ）
- ・ 市町村説明会等の企画立案・運営 ・ 広報活動
- ・ 教育委員会との緊密な連携（情報共有）

年間の事業スケジュール

- 令和6年5月 学校（運動）部活動の地域連携・地域移行に係る意見交換会実施
- 令和6年6月 県立中学校アンケート調査実施
- 令和6年7月 第1回生徒の豊かなスポーツ・文化芸術活動の実現に向けた検討会議（県庁内連携）
- 令和6年8月 部活動移行に係る県立中学校5校説明会実施
- 令和6年9月 第2回生徒の豊かなスポーツ・文化芸術活動の実現に向けた検討会議
- 令和6年10月 県立中学校2校2部活において地域クラブ活動の体験会の実施
- 令和6年11月 企画部企画課との地域移行に係る庁内会議
- 令和6年11月 県立中学校2校2部活において休日の活動についての地域移行開始
- 令和6年11月 第3回生徒の豊かなスポーツ・文化芸術活動の実現に向けた検討会議
- 令和7年1月 山口県庁及び防府市の取組を視察
- 令和7年1月 地域スポーツクラブ活動体制整備事業に関するWebミーティング実施
- 令和7年2月 学校（運動）部活動の地域展開等に係る研修会実施
- 令和7年2月 学校部活動の地域連携・地域移行に係る推進協議会実施

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	3クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3クラブ（3部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	7人	全体の運営スタッフ数	7人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
九度山ジュニアソフトテニスクラブ	地域スポーツクラブ	ソフトテニス	週1回	日曜日 9:00~ 12:00	2年生 8名 1年生 14名	2024.12~	九度山文化スポーツセンター	2人	2人 (兼務なし)	月会費 1,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
橋本ジュニアソフトテニスクラブ	地域スポーツクラブ	ソフトテニス	週1回	土曜日 9:00~ 12:00	2年生 2名 1年生 2名	2024.12~	学文路スポーツパーク	2人	2人 (兼務なし)	月会費 1,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
紀の国アスリートクラブ	地域スポーツクラブ	陸上競技	週1回	土曜日 9:00~ 12:00	2年生 3名 1年生 3名	2024.12~	紀三井寺陸上競技場他	3人	3人 (兼務なし)	月会費 2,000円	中体連：部活動 その他：地域クラブ

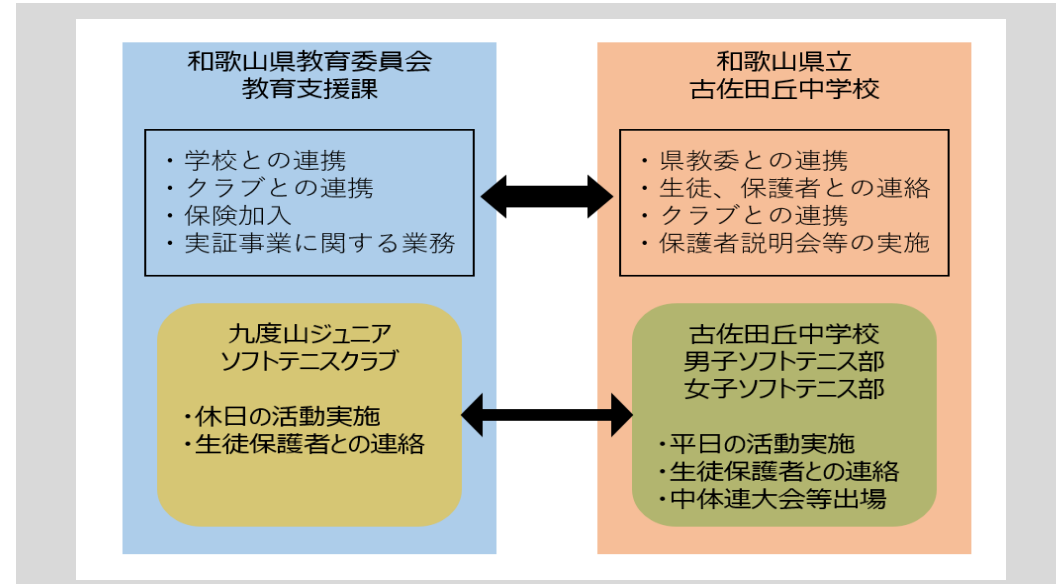
2.実証内容と成果

主な取組例

●九度山ジュニアソフトテニスクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ソフトテニス
運営団体名	九度山ジュニアソフトテニスクラブ
期間と日数	ソフトテニス：12月22日～ (週1回程度)
指導者の主な属性	地域指導者
活動場所	九度山文化スポーツセンター
主な移動手段	自転車 保護者送迎
1人あたりの参加会費等(月額)	1,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として、県教委、学校、保護者との連携を行う

●指導者

役割：活動における指導者として、生徒への指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

- イ：指導者の質の保障・量の確保
- ウ：関係団体・分野との連携強化
- エ：面的・広域的な取組

- オ：内容の充実
- カ：参加費用負担の支援等
- キ：学校施設の活用等
- ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・ 学校教育担当課とスポーツ所管課との定期的な協議・情報交換の実施
- ・ 県教育委員会が協議会等の運営について市町村教育委員会等に助言を行う。
- ・ 県立中学校における地域移行に向けた運営体制の整備や人材確保について、支援する。

取組の成果

・市町村担当者研修等

○学校(運動)部活動の地域連携・地域移行に係る意見交換会

【紀南会場】令和6年5月30日【紀北会場】令和6年5月31日

- (1) 講義「学校部活動の地域連携・地域移行における本県の課題解決に向けて」講師 和歌山大学 教授 林 修 氏
- (2) ワークショップ「協議会等とニーズ調査の充実について」
- (3) 全体共有

○学校(運動)部活動の地域展開等に係る研修会

令和7年2月6日

- ①和歌山県における部活動の地域展開等について 県教育庁学校教育局教育支援課 指導主事 森下 博友
- ②学校部活動の地域展開等に係る行政担当者の役割 奈良県生駒市教育委員会事務局 生涯学習部 スポーツ振興課長 西 政仁 氏
- ③地方別意見交流

・市町村協議会等訪問

【協議会行政説明】かつらぎ町 上富田町 新宮市 古座川町 由良町

【教育委員会訪問】紀の川市 広川町 太地町 北山村 日高川町 和歌山市

・地域クラブの登録指定等に関する支援

市町村が定める要件をもとに、市町村で地域クラブの登録指定等ができるよう、情報提供をはじめとする支援を行う

・県内全市町村参加のWebミーティング等

地域スポーツクラブ活動体制整備事業（地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業）に関するWebミーティング
令和7年1月29日



今後の課題と対応方針

本県の取組にあたり、今年度はコーディネーターを配置せず、県教育委員会教育支援課指導主事を中心に取り組んだ。県として各市町村の担当者との連絡調整や指導助言等の体制整備を進める中で、学校部活動の担当部署とスポーツの担当部署が異なることがあり、行政内での連携や役割分担を整える必要性を感じた。さらに、少子化や人口減少が進む本県においては、単に中学生のスポーツ環境の整備というだけでなく、まちづくりという視点で検討する必要性も感じた。また、県立中学校の部活動改革に向け近隣の地域スポーツクラブ等と学校の連携にも着手し研究を進めているが、生活圈と学校が離れている生徒や、高等学校との関わりなど県立中学校ならではの課題も明らかになり、今後それらの研究も進めていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- ・ 指導者及び指導者候補者に対して、資格取得や資質向上のための研修の受講を促す。
- ・ 大学と連携して資質向上のための指導者研修プログラムを整備する。
- ・ 関係団体との連携による指導者情報提供に係る体制整備

令和6年度運動部活動等指導者研修会

これまで、和歌山県教育委員会が開催してきた運動部活動指導者研修会について今年度から運動部活動等指導者研修会とし、運動部活動等指導に携わる教職員・部活動指導員・外部指導者及び地域のスポーツ活動指導者を対象に、運動部活動等の意義やねらいを踏まえた運営や指導の在り方、体罰、ハラスメントや不適切な指導の根絶、事故防止等について研修会を実施した。

指導者情報提供に係る連携

部活動の地域移行に取り組む地域クラブ活動への指導者情報提供について、県教育委員会教育支援課が窓口となり、スポーツ課（知事部局）や県スポーツ協会を通じて競技団体等の各種団体からの情報を提供できるよう、体制整備を行った。

今後、現場が求める指導者、指導者が求める現場というような双方向のマッチングに向けた体制整備を目指したい。

取組の成果と課題及び対応方針

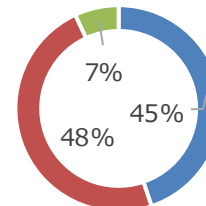
運動部活動指導者等への研修会を実施するにあたり、スポーツ活動指導者等にも参加を呼び掛けたところ、地域クラブ指導者の参加もあった。今後、さらに周知啓発を進め、指導者の資質向上を図っていきたい。

また、指導者の量の確保について、関係団体等の連携を深め、現場と指導者の双方向的マッチングにむけた体制整備や、人材バンク機能の創設について研究を進めていきたい。

今年度、取組予定としていた、大学との連携による指導者研修プログラムについて、研究を進めたが実現には至らなかったため次年度以降も整備を目指したい。

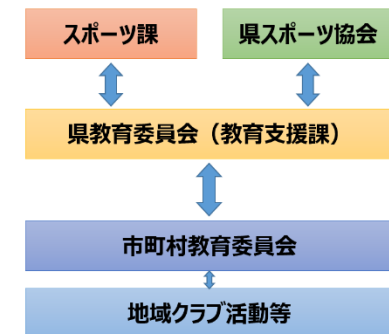
令和6年度運動部活動等指導者研修会参加者の割合

- 中学校部活動指導者
- 高等学校部活動指導者
- 地域クラブ活動指導者



令和6年度運動部活動等指導者研修会参加申込から

指導者情報提供に係る連携体制



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

・ 和歌山県スポーツ協会や大学等と連携し、休日の学校部活動に対して、指導者を派遣するとともに、指導者研修会へ講師派遣する。

取組の成果

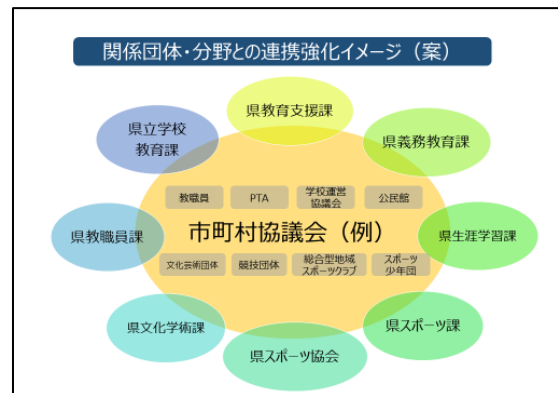
和歌山県スポーツ協会や大学等と連携により、休日の学校部活動や地域クラブ活動に対する、指導者派遣や、指導者の育成に向けた研修会への講師派遣等について、関係団体と協議を行った。具体的には独立大学法人和歌山大学との連携を目指し協議を行い、当該大学職員に市町村担当者研修での講義並びに学校部活動の地域連携・地域移行に係る推進協議会への参画等の協力をいただき、県内の取組を推進した。
 また、指導者について和歌山県スポーツ協会や大学等との連携による派遣には至らなかったが、今後も人材確保についての取組の研究を進めたい。



市町村担当者研修の様子

県と市町村協議会との連携

今後、県と各市町村協議会の連携により関係団体・分野との連携強化を図る方策も研究する必要がある。



今後の課題と対応方針

大学、各種県内競技団体等及び各市町村とを繋ぎ、指導者の人材確保に向けた取組の推進や指導者養成のための研修を実施するための方策について研究を進めたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

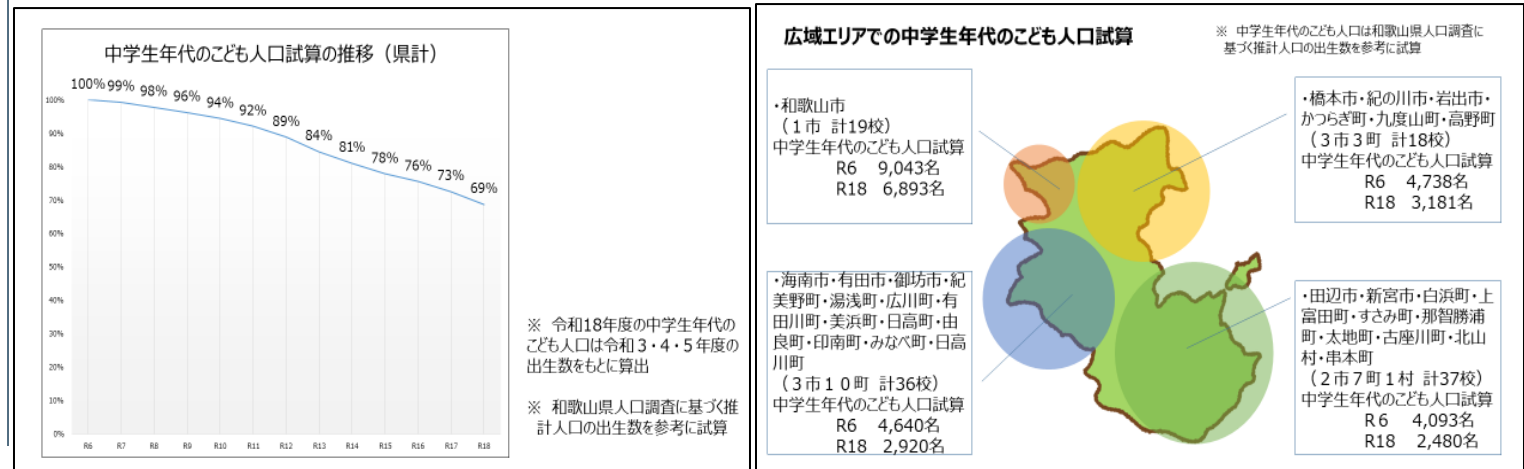
●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

・ 県教育委員会ホームページにて、部活動の地域連携・地域移行について広く広報する。

県内中学生人口の推移についての分析

和歌山県人口調査に基づく推計人口の出生数を参考に中学生年代のこども人口の推移を試算したところ、県下をエリアでまとめた広域での取組の必要性が伺えた。



取組の成果

県教育委員会ホームページにて、部活動の地域連携・地域移行について広く広報するとともに、各市町村担当者を対象とする研修会を年間2回実施したところ多くの参加者があった。各市町村での取組の推進に加え、地域の実情や課題に応じた広域での取組についての必要性を啓発できた。

	参加人数	参加自治体数 (全30)
市町村担当者研修 (5月)	52人	26自治体
市町村担当者研修 (2月)	41人	22自治体

今後の課題と対応方針

具体的な取組の方針や内容について研究が十分でない部分もあり、今後一層の分析を行う必要がある。また広域での取組ということになるとイニシアティブの所在が不明瞭になることが想定されるので、県が広域的な支援方策を検討するなど役割を果たす必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

県立中学校5校の保護者に対して、会費の適切な設定の検討及び、徴収方法の検討のため、保護者負担経費の調査を実施する。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

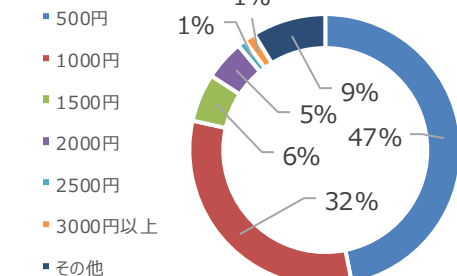
今年度、県立中学校での取組では、既存のスポーツクラブと連携し、休日の部活動を地域クラブに展開したので、クラブの立ち上げ等に要する費用は発生しなかった。しかしながら、クラブの立ち上げが必要な状況であれば、イニシャルコストを公費等の補助を用いずに受益者が負担することは考えにくい。

■ランニングコストの分析

今回の実証では、県教育委員会が運営主体となり県立中学校の運動部活動を地域クラブに展開するためのスキームを研究したが、指導者謝金や会場使用料、消耗品の購入等のランニングコストについて、行政が運営主体となることで生じる支払い方法等の課題に直面した。今後、運営団体等への業務委託について研究する必要がある。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

県立中学校保護者の部活動に代わるスポーツ・文化・芸術活動の参加費用上限に対する考え

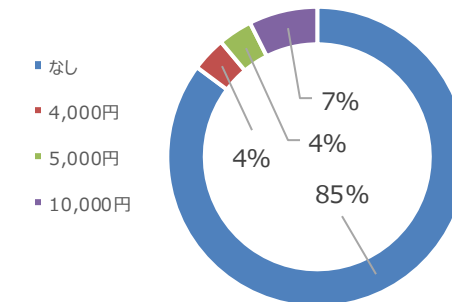


令和6年度県立中学校保護者への部活動の地域移行に関するアンケート調査

令和6年度に実施した県立中学校保護者へのアンケート調査では1回の活動にかかる参加費として、500円もしくは1,000円を上限と考える保護者が79%を占めたことから、県立中学校の部活動地域移行においては月あたり2,000円～4,000円程度が上限として想定される。

収支バランス

中学校部活動の地域移行に際する指導者謝金の想定について（月あたり）



和歌山県柔道連盟 中学生の柔道振興に係る調査（まとめ）2025.02.16

指導に対する報酬を指導者が求めないというケースもあり、その場合、消耗品費、会場費、大会出場に向けた積立、競技団体等への登録に係る経費などが活動に要する経費として考えられ、それらを会員で分担するという点についても研究を進めたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

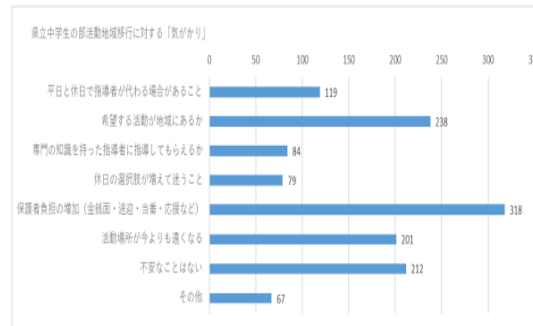
取組の成果

県立中学校生徒及び保護者へのアンケート調査から金銭面での負担増加が生徒保護者共に気がかりとなっていることが分かった。今年度の実証事業では参加費用等への負担を求めなかったが、今後活動にかかる経費について分析し、参加費用等の負担と支援のバランス等について検討していく必要がある。

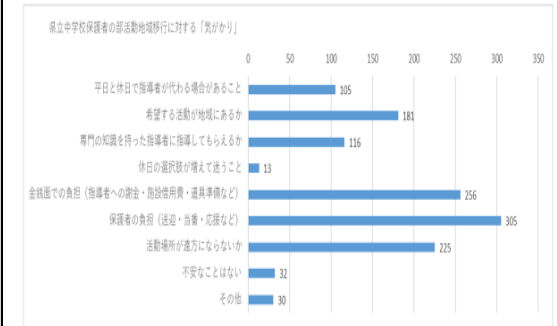
今後の課題と対応方針

今年度、実証事業を通して県立中学校 2校3部の休日の活動を地域クラブへ展開することに取り組んだ。活動にかかる経費等への支援についても研究したが、行政が運営団体として地域クラブの支援を行う際にその方法等で課題が生じる場面があった。今後、地域クラブへの支援を具体化していくにあたり、実施主体と運営団体がそれぞれの機能を明確化させながら連携していけるためのスキームを研究する必要がある。

県立中学校生徒が部活動地域移行について「気がかり」だと考えることとしては、「保護者負担の増加（金銭面・送迎・当番・応援など）」が最も多く、次いで「希望する活動が地域にあるか」が多かった。



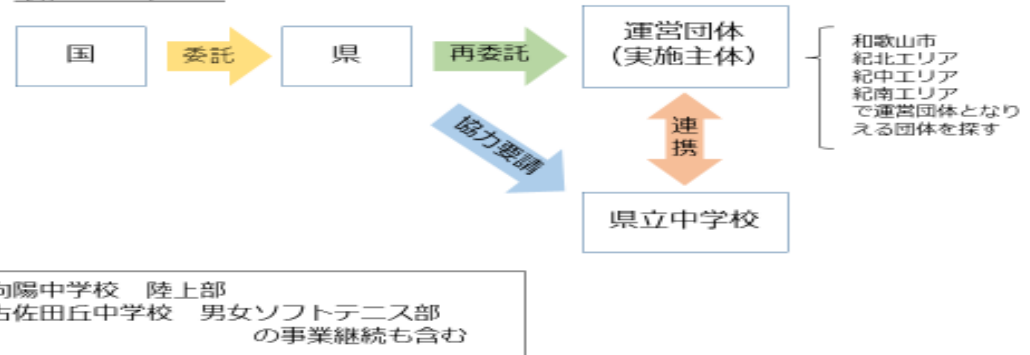
県立中学校保護者が部活動地域移行について「気がかり」だと考えることとしては、「保護者の負担（送迎・当番・応援など）」が最も多く、次いで「金銭面での負担（指導者への謝金・施設借費用・道具準備など）」が多かった。



R7 県立中学校での取組（計画）

県立中学校 5校で各校1部活動以上の休日の活動を地域へ展開する

取組のスキーム

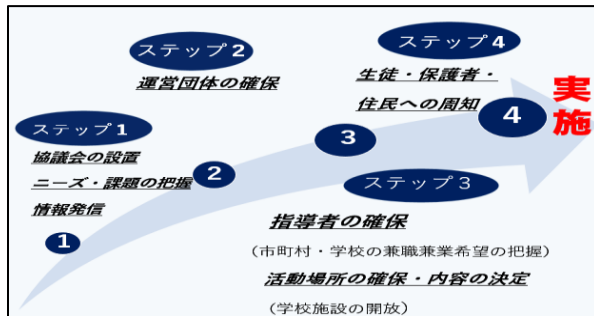


総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○ 県内の地域連携・地域移行の進展

本県では令和6年度から令和8年度を地域連携・地域移行の改革準備期間と定めており、本年度はその初年度となっている。ステップ1として各市町村で協議会を設置し、協議を始めていくことを啓発し、年度当初9の自治体にとどまっていた協議会設置が年度内に15に増え、協議が始まっている。今後すべての市町村で協議が行われ、中学生のスポーツや文化芸術活動の環境整備にむけた取組がなされるよう支援を続けたい。



○ 県立中学校における部活動改革

県内5校の県立中学校においても部活動の地域移行による活動の充実に向けた取組に着手した。県立中学校ならではの課題があるが、課題の分析と解決に向けた手立ての研究を進めたい。

●成果の評価

本県の部活動地域連携・地域移行の改革準備期間初年度にあたる今年度、県内各地で中学生のスポーツや文化芸術活動の環境整備についての協議がなされた。課題は様々であるが、共通点も見出された。特に、指導者や運営者の不足といった「人材」に関わる課題、活動費用や運営費用の不足といった「資金」に関わる課題が地域の違いによらず共通して挙げられる課題であった。こういった全県に共通する課題については、県が対応策を検討し支援を進める内容であると考えられた。具体的な手立ての実施までには至っていないが、課題の洗い出しを行うことができたので、県としてできる支援の具体を研究していきたい。

県の直接的な取組として進めた県立中学校での部活動改革について、2校3部活での実証を行った。教職員への説明や保護者説明会等で啓発につとめたが、既存の活動を途中で変更していくということは、生徒や保護者、学校にとっても負担が大きいということを実感した。しかし、実際に地域クラブの指導者による専門的な指導を受けることで、生徒が競技の魅力に触れ、大きく変化する様子も見とれた。地域クラブと学校との連携が生徒に与える影響は少なくないと感じ、今後も取組を進捗させたい。

●今後に向けて

県内の各市町村の課題と共に向き合いながら、伴走支援ができるよう関係づくりに尽力したい。また、「人材」や「資金」といった県内共通の課題に向けて県庁内の様々な部署と連携し取り組んでいきたい。県内を広域的にコーディネートすることができる運営団体等についての研究も進め、「人材」や「資金」等の通り道を整備することも必要であるとする。

市町村の地域移行と並行して、県立中学校における部活動改革についても高等学校との併設校としての特色を生かしながら進めていきたい。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・広報資料

和歌山県教育委員会ホームページにて、部活動地域連携・地域移行について啓発を行っている。また、「和歌山県学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する方針」についても、周知に努めている。

和歌山県立中学校の生徒、保護者、教職員へのアンケート調査を行いその結果を分析した。生徒、保護者の地域移行に対する期待や気がりについて、共通点や相違点が見出された。

和歌山県教育委員会
Wakayama Prefectural Board of Education

部活動の地域連携・地域移行 New!!

和歌山県学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する方針について

学校部活動については、少子化が進む中、学校部活動(奨励)と同様の体制で運営することは難しくなっており、学校や地域によっては存続が難しい状況にあります。また、専門性や専任に頼らずに教員が臨時を頼るこれまでの指導体制を継続することは、学校における関係構築が難しくなり、より一層厳しくなります。

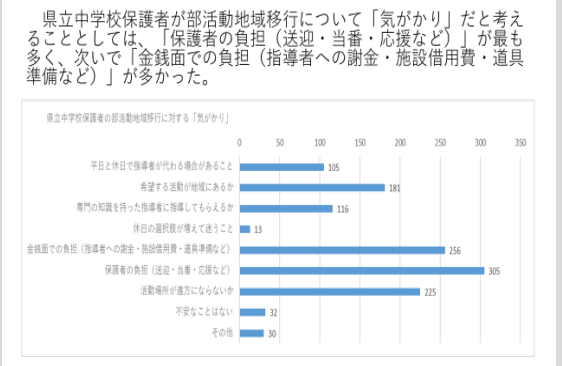
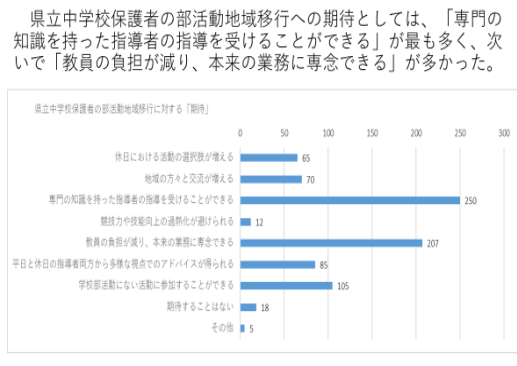
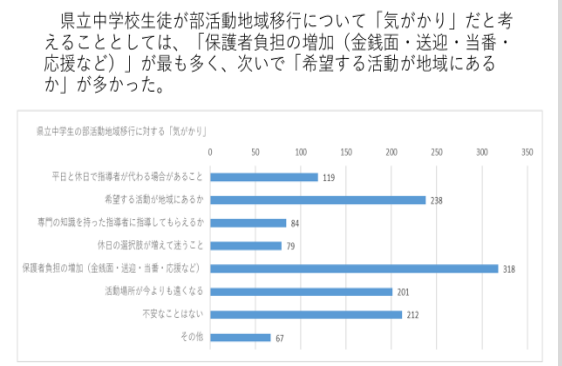
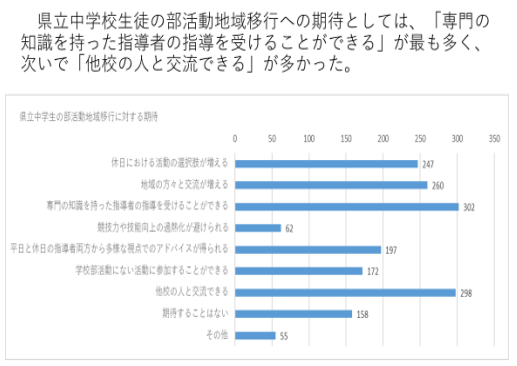
このような中、少子化の中でも将来にわたり、生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して関与し、向上する機会を確保することを目的として、学校部活動の地域連携・地域移行に係る和歌山県の方向性や新たな地域クラブ活動を整備するために必要な対応について方針を策定しました。なお、平成30年4月策定の「和歌山県運動部活動方針」や、令和元年12月策定の「和歌山県文化芸術活動方針」は、本方針に統合します。

和歌山県学校部活動の地域連携・地域移行に係るイメージ図
和歌山県における学校部活動の地域連携・地域移行の達成過程の取り組み

※ 方針等については、以下のダウンロードすることができます。
※ 和歌山県学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する方針 (PDF形式:5,025キロバイト)

学校部活動の地域連携・地域移行や地域クラブ活動への移行とは？

- 学校等の部活動を縮小する状況
- 少子化による生徒数減少の影響を大きく受け、部員が確保できないことにより、目標の練習すらままならないだけでなく、単独チームの大会へ出場することができないため、部活動意向チームを編成し大会に出場する部活動があります。
- また、生徒がやりたい部活動に取り組むことが難しくなっている現状があります。
- 多様な活動ができる場整備
- 少子化の中でも将来にわたり、生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して関与し、向上する機会を確保するために目指しています。そのために、地域との連携や、地域クラブ活動においても、学校部活動の教育的意義や役割を継承・展開させることが重要です。
- 学校部活動が生徒にとって楽しいスポーツ・文化芸術活動となるために、学校関係者等と必要な連携を図りつつ、異連携等の一環に応じた多様な活動ができる環境を整えることが求められています。



【和歌山県ホームページ】

出典: <https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefq/501200/d00213713.html>

【アンケート結果】

出典: 令和6年度県立中学校関係者への部活動の地域移行に関するアンケート調査について

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



【紀の国アスリートクラブでの様子】

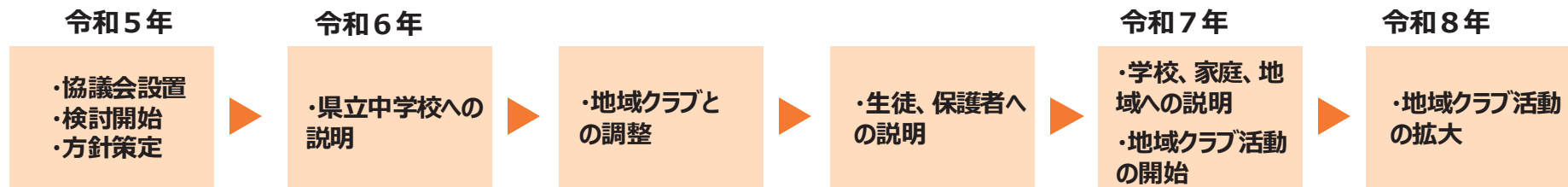


【九度山ジュニアソフトテニスクラブでの活動】



【橋本ジュニアソフトテニスクラブでの活動】

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

県教育委員会（教育支援課 生涯学習課） 県スポーツ課 県スポーツ協会（各種競技団体 スポーツ少年団 総合型地域スポーツクラブ等）
県立中学校

●経過

年度の途中からの取組となったため、3年生が引退した後のタイミングで保護者説明会、体験会、移行と進み、地域クラブでの活動が始まったのが12月前後となった。12月以降は週末の活動について週に1回のペースで地域クラブ活動へ展開している。

●実施にあたって生じた課題

2校3部の休日の活動については、状況に応じて学校部活動の活動を行う場合もあり（大会出場等）学校部活動と地域クラブのスケジュール管理が難しい場面もあった。

移行当初、地域クラブと家庭との連絡体制が構築されるまでは、地域クラブと家庭の間に県教育委員会と学校も入ったので、連絡に時間がかかり行き違い等が起きる場面もあった。

●実施内容、工夫した点等

県立古佐田丘中学校の男子ソフトテニス部と女子ソフトテニス部については、近隣のジュニアソフトテニスクラブが2団体あったため、双方へ体験会に行き、休日に行ってみたいクラブを選べるようにした。県立向陽中学校陸上競技部については、近隣の陸上クラブで体験会を実施し、休日の活動を地域クラブへ移行する流れとした。

4月の年度初めは、学校部活動にとっては夏の中体連大会前の時期にあたるので、夏の大会後新チームになるタイミングで改革を実行するほうがチームへの負担が少なくなることが想定される。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

【学校部活動地域連携・地域移行に係る取組のロードマップ】

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
和歌山県	<ul style="list-style-type: none"> 協議会の設置、運営 和歌山県学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する方針作成 県協議会での検討内容発信 意見交流会の実施(紀北・紀南各地域) 好事例研究 	<ul style="list-style-type: none"> 和歌山県学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する方針周知 好事例の紹介 		<ul style="list-style-type: none"> 令和8年度までに、各市町村が持続可能な地域クラブ活動の運営体制を整えることができるよう、県の支援体制を整備する。
市町村	<ul style="list-style-type: none"> 【国費】実践研究を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 協議会等の設置、運営 ニーズや課題の把握 学校部活動地域連携・地域移行 	<ul style="list-style-type: none"> 計画策定 活動場所 活動内容 生徒・住民への周知 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な地域クラブ活動への連携・移行を進めることができるよう支援する。
学校		<ul style="list-style-type: none"> 市町村担当者との連携 学校検討委員会等を活用し地域連携・地域移行を推進 地域クラブとの連携 		
団体		<ul style="list-style-type: none"> 学校と連携 運営団体の強みを生かした、運営形態で、地域クラブ活動を提案 		

【今後の改革の方向性】

	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)
県及び市町村	改革準備期間 (まずは休日の部活動から段階的に地域移行)			地域クラブ活動の充実 (休日については、原則として全ての学校部活動の地域移行を目指す) 県及び市町村が幅広い関係者の理解と協力の下、平日・休日を通じた活動を包括的に企画・調整し、多様な選択肢の中から地域の実情等に あった望ましい在り方を見出していく				

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

和歌山県 和歌山市

自治体名：和歌山県和歌山市

担当課名：学校支援課

電話番号：073-435-1139

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	209 km ²
人口	353,219 人
公立中学校数	18 校 (義務教育学校1校含む)
公立中学校生徒数	7,038 人
部活動数	210 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市においては、18校の市立中学校及び義務教育学校があり、210部活動で5,601人（運動部は3,795人）が活動している。学校部活動への加入率については、高い水準を保っているものの、生徒数の減少に伴い、複数校で合同チームを結成しなければいけないケースが増加傾向にある。また、競技や種目の専門性を有する指導者が配置されていない部があり、指導経験の少ない顧問教員の精神的負担が増大している現状もある。

令和6年度に学校部活動の地域連携・地域移行に係る推進協議会を立ち上げ、本市の実情に沿った地域展開等の在り方を協議している。全種目一律の地域展開ではなく、学校の立地条件や各競技の特性に応じた地域展開等を進めるためにその活

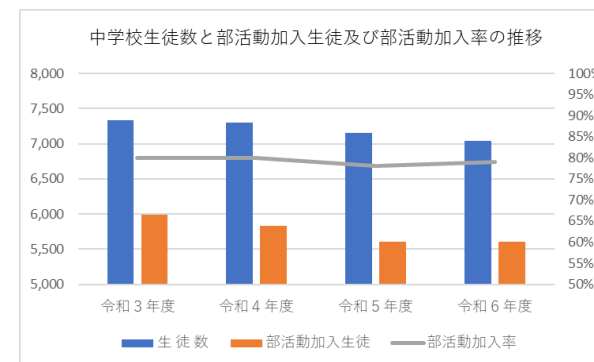
動体制の在り方を実証事業を通して整備している。

今年度は、生徒のニーズに応じた活動体制とローテーションの指導による指導者（兼職兼業の教員も含む）の負担軽減を実証課題に軟式野球の地域クラブ活動を行った。

今後は、各競技種目の特性に応じた地域展開等について、部活動顧問と地域の関係者による検討を行い、具体的な取組を進めると共に、学校部活動の地域展開等についての情報発信を行い、児童生徒や保護者をはじめ、教員や地域の関係者への理解促進を図る。

中学校生徒数と部活動加入生徒数及び部活動加入率の推移。

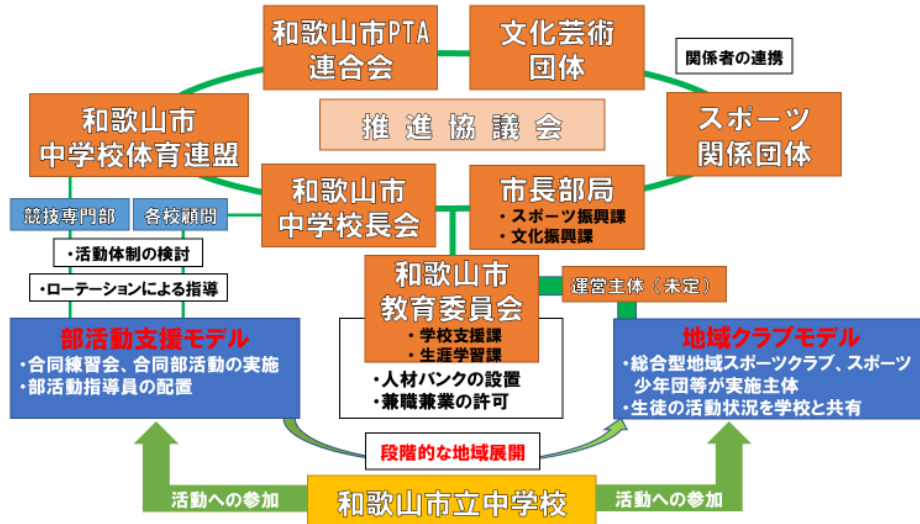
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
生徒数	7,331人	7,299人	7,150人	7,038人
部活動加入生徒	5,991人	5,832人	5,602人	5,601人
部活動加入率	80% (運動部 58%) (文化部 22%)	80% (運動部 56%) (文化部 24%)	78% (運動部 55%) (文化部 23%)	79% (運動部 54%) (文化部 25%)



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・地域クラブの立ち上げ補助及び学校体育施設の利用・教職員の兼職兼業についての整備
- ・推進協議会事務局

◎首長部局

- ・推進協議会委員
- ・総合型地域スポーツクラブとの連絡・調整
- ・市立体育施設の使用許可

年間の事業スケジュール

- 令和6年 5月 ・生徒・保護者・教職員へのアンケート調査
- 令和6年 6月 ・地域クラブ立ち上げ
- 令和6年 7月 ・第1回推進協議会
- 令和6年 10月 ・和歌山市中学校体育連盟軟式野球専門部に説明
- 令和6年 10月 ・第2回推進協議会
- 令和6年 12月 ・活動周知及び参加者募集
- 令和7年 1月 ・第3回推進協議会
- 令和7年 2月 ・地域クラブ活動の実施
- 令和7年 2月 ・第4回推進協議会
- 令和7年 2月 ・方針（骨子案）の作成

※運営体制図における上級者の技術向上志向及び女子チームでの活動希望は夏季大会終了後に活動をスタート。2つの活動を統合し、初級者～中級者の技術向上志向を新たに設置する形で地域クラブを立ち上げた。

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	18校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ（15部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	7人	全体の運営スタッフ数	7人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
和歌山ベースボールクラブ	任意団体設立型	軟式野球	月4回/ 週1回	AM 9:00~ 12:00	中1 69人 中2 57人 中3 23人 (のべ参加人数)	令和6年 10月~ 令和7年 2月	市民球場 市立中学校	7人	7人	800円(保険代として)	

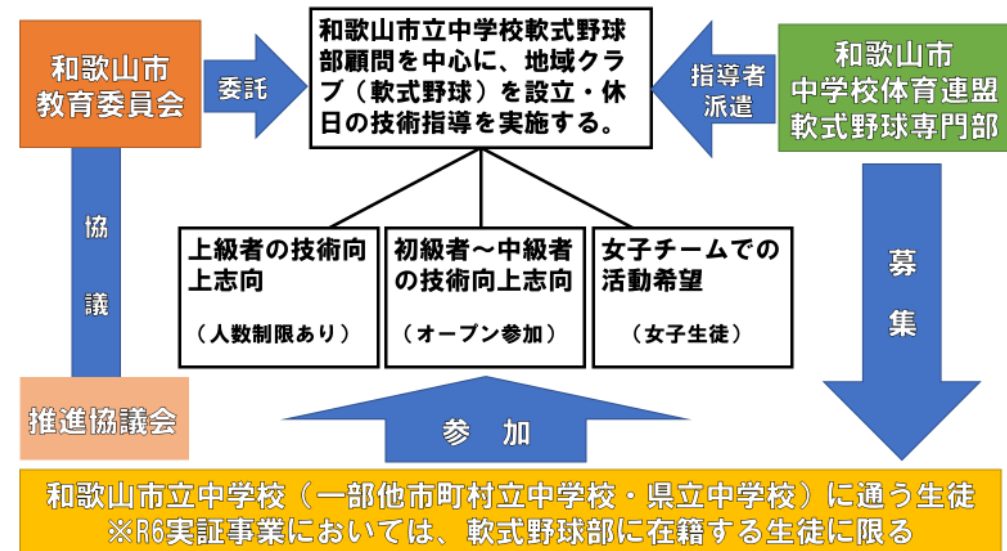
2.実証内容と成果

主な取組例

●和歌山ベースボールクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	軟式野球
運営団体名	和歌山ベースボールクラブ
期間と日数	6月30日～ 月4回程度
指導者の主な属性	中学校教員、クラブ指導者
活動場所	市民球場、市立中学校
主な移動手段	自転車、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	今年度については、参加費を徴収せずに実施
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●和歌山ベースボールクラブ事務局

役割：活動場所の決定、参加者の保険加入、消耗品の購入等の運営を行う

●地域クラブ指導者

役割：主に上級者の技術向上志向クラス、女子チームでの活動希望クラスの指導を行う

●和歌山市中学校体育連盟軟式野球部専門部

役割：主に初級者～中級者の技術向上志向クラスの指導をローテーションで行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○既存の軟式野球チームと和歌山市中学校体育連盟軟式野球専門部と連携し、地域クラブを立ち上げ、軟式野球部に所属する生徒に対し、休日の技術指導を実施。

○生徒のニーズや環境等に応じて3つのカテゴリを整備し、活動機会の充実を図った。

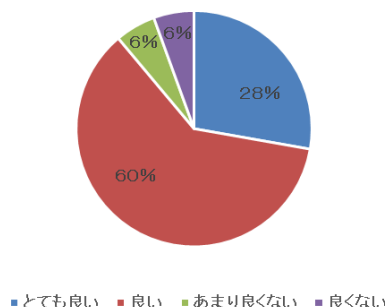
○教育委員会は、推進協議会の設置及び学校施設を含む練習会場の確保や団体同士の連絡調整を行った。

取組の成果

3つのカテゴリのうち、オープン参加とした「初級者～中級者の技術向上志向」のクラスに参加した中学生123人のうち、アンケートに回答した88%が、活動に対して「とても良かった」または「良かった」と回答し、その理由として「普段の練習は人数が少なく、実践を意識した練習ができなかったので今回の練習会でできてよかった。他の参加者ともコミュニケーションをとることで、仲良く慣れた。」等、学校部活動の教育的意義の継承及び活動内容の充実が見られた。

また、学校部活動の地域連携・地域移行に係る推進協議会を立ち上げ、本市の学校部活動の地域展開等について関係者による協議を行った。方針の骨子案においては、市内全種目一律の地域展開ではなく、学校の立地条件や各競技の特性に応じた地域展開等を進めるための今後の取組について取りまとめることができた。

今回の練習会についてどう思いますか。



コーディネーターの具体的な動きの実績

現在、コーディネーターを配置してはいないが、運営主体と実施主体が同一であることから、練習場所の調整や指導者への連絡等、負担が生じた。今後の持続可能な活動に向けて、コーディネーターの必要性という課題も明らかになった。

今後の課題と対応方針

現在の休日の技術指導を実施する体制においては、年度が明けシーズンに入ると各校ごとの戦術練習や練習試合等で地域クラブ活動への参加が減少すると考えられる。そこで合同部活動の実施等、学校部活動の整理を並行して進めると共に、学校部活動と地域クラブ活動の連携を強化することで、休日の地域展開を進めていきたいと考えている。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度、設置した学校部活動の地域連携・地域移行に係る推進協議会においては、学校関係者、スポーツ関係団体、文化芸術団体、PTA連合会の各代表者による協議を通して、学校部活動の地域展開等についての共通理解を図ることができた。また、それぞれの立場から今後必要な取組事項について意見が出され、次年度以降の取組について合意形成がなされた。

地域クラブ活動の実証においては、活動に対する生徒の満足度は高く、生徒のニーズに応じた活動体制については成果が見られた。しかし体制を整備していくにあたり、既存のクラブチームと和歌山市中学校体育連盟軟式野球専門部、教育委員会の連携がスムーズにいかず、地域クラブの立ち上げに時間を要した。このことに伴い、活動整備に係り、和歌山市中学校体育連盟軟式野球専門部所属の教員に負担も生じ、教員の負担軽減については課題が残った。また、市立体育施設を利用して活動を実施したものの、他の団体の大会等との重なりから会場の空き状況が少なく、活動開始時期が遅れた。さらに防球ネット等の備品がなく、効率的な練習には工夫を要したことから、このような課題の解決を図るための学校体育施設の利用を進めていく必要性についても実証された。

●成果の評価

学校部活動の地域連携・地域移行に係る推進協議会において、本市の実情を踏まえ、今後の学校部活動の地域展開の目指す姿や来年度の取組の具体を示した「和歌山市地域展開等の在り方に関する方針（骨子案）」を作成した。

軟式野球の地域クラブ活動において、3つのカテゴリのうち、オープン参加とした「初級者～中級者の技術向上志向」のクラスに参加した中学生123人のうち、アンケートに回答した88%が、活動に対して「とても良かった」または「良かった」と回答し、「今後このような練習会の実施を希望しますか。」という問いに対しても79%が「強く希望する」「希望する」と回答している。今後希望する練習内容についても「ランナーとバッターをつけた練習」や「実戦的な守備練習」といった、現状の学校部活動では、人数の不足から実施できないメニューを希望しており、生徒のニーズに応じた活動体制に向けて成果があった。

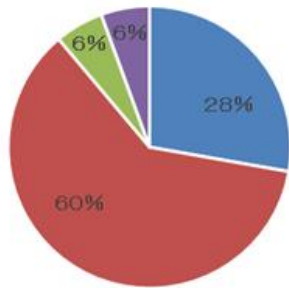
●今後に向けて

本市では、全種目一律の地域展開ではなく、学校の立地条件や各競技種目の特性に応じた地域展開等を進めていく。そこで、来年度各競技種目の検討会を実施し、再来年度以降の各競技種目の地域展開等の実施形態を検討していく。地域クラブ活動の継続・拡充と共に、学校部活動の見直しを行い、各競技種目の実情に沿った地域展開等を進めていく。また、生徒・保護者等に本市の学校部活動の地域展開等の取組状況について随時周知を行い、理解促進を図る。

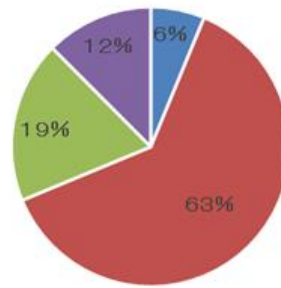
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

Q.今回の練習会についてどう思いますか？（生徒）

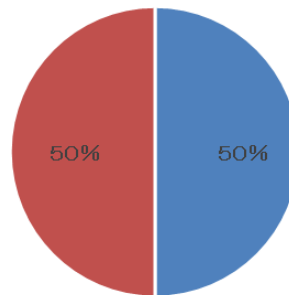


Q.今後このような練習会の実施を希望しますか？（生徒）



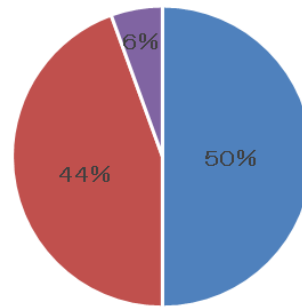
■とても良い ■良い ■あまり良くない ■良くない ■強く希望する ■希望する ■あまり希望しない ■希望しない

Q.練習場所までの保護者の送迎に負担を感じますか？（保護者）



■負担を感じる ■負担に感じない

Q.今回の練習会についてどう思いますか？（保護者）



■とても良い ■良い ■あまり良くない ■良くない

●参加者の声

中学生

他のチームの人とプレイするから、全ての守備位置に入った状態の練習ができて、外野との連携などの確認ができたからとても良かったです。

中学生

他のチームの人との交流ができて、仲良くなれたから良かったです。友達が増えるのが嬉しいです。今後は、ボール回しをして欲しいです。理由は、自分のポジション以外の人も仲良くなれるからです。

保護者

合同で行うことで少数ではあるが軟式野球をしたい子どもを受け皿になってほしいと思います。多少部費の値上がりしても、外部の講師をつけ、先生の負担軽減を図るべきだと思います。しかし、非課税家庭など経済格差がある家庭には、部費の負担軽減も考えなければならないと思います。全ての生徒が、安定した活動ができるよう、もっと柔軟に対応していただきたいです。

保護者

今の形態では中学からとりあえず野球してみようと思った時、未経験者にはハードルが高いと思います。地区合同にして人数を確保できるようにし、毎日の強制参加ではなく、熱心に参加したい子、野球を楽しむぐらいで参加したい子、子供の都合に合わせられるような部活動になるなら良いと思います。

広報資料

和歌山市学校部活動の地域展開等の
在り方に関する方針
(骨子案)

和歌山市教育委員会

【和歌山市学校部活動の地域展開等の在り方に関する方針（骨子案）】

出典:和歌山市 学校支援課ホームページ (現在公開準備中)

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【集合の様子】



【キャッチボールの様子】



【ポジションごとのパート練習の様子】



【推進協議会における協議の様子】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年

協議会設置、
検討開始

方針（骨子案）
の作成

令和7年

各競技種目の
検討会の実施

方針の策定
生徒、保護者へ
の説明

令和8年

地域クラブ活動及
び学校部活動の
地域連携の開始

令和9年

地域クラブ活動
の拡大

●ステークホルダー

スポーツ関係団体・文化芸術団体

●経過

学校部活動の地域連携・地域移行に係る推進協議会において、出席を求め、意見を聴取した。

●実施にあたって生じた課題

学校部活動の地域展開等についての共通理解や本市の方針についての合意形成に向けて、様々な意見があり時間を要した。

●実施内容、工夫した点等

国及び県の動向や「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」の中間とりまとめの情報共有を行い、協議を進めた。

●ステークホルダー

地域のスポーツクラブ・文化団体

●現状

中学校体育連盟主催の大会へのクラブチーム参加可能となったことに伴い、少しずつであるが中学生の活動受け入れを行う地域クラブが増えてきている。しかし、本市の学校部活動の地域展開等の取組とは結びついていない。

●今後の取組

各競技種目の検討委員会に地域のスポーツクラブや文化団体の出席を呼びかけ、今後の取組について協働して検討する。

●ステークホルダー

生徒・保護者・学校関係者

●現状

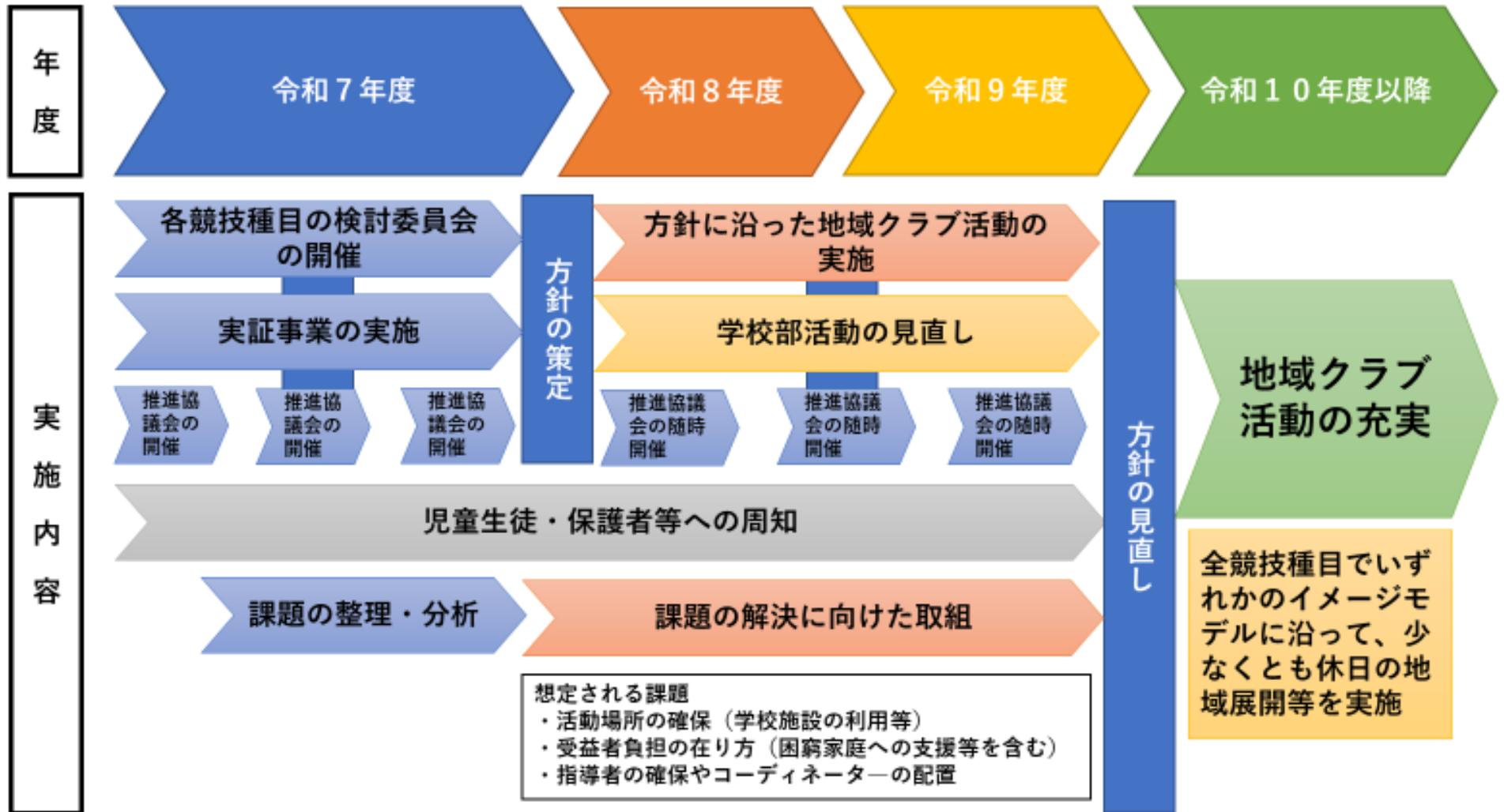
学校部活動の地域展開等について、本市の取組状況が公開されていないため、今後どのように地域展開等が進んでいくのかが分からない状況である。

●今後の取組

推進協議会での協議内容や、各競技種目の検討委員会の実施状況について、概要をまとめ、ホームページ等を通じて周知を行うと共に、児童生徒の1人1台端末を利用して広報用のチラシを配布し、地域展開等への理解促進を図る。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

和歌山県有田市

自治体名：和歌山県有田市

担当課名：教育総務課

電話番号：0737-22-3758

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	36.92 km ²
人口	25,172人
公立中学校数	1校
公立中学校生徒数	610人
部活動数	23部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	作成途中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

令和6年度から市内中学校統合により市内1中学校となったことで、現存する各部活動の所属人数は増加した。しかしながら、今後の生徒数の見通しでは、2036年におおよそ半分程度の生徒数の減少が見込まれる。近年の出生数を鑑みると、その後も減少することは想像ができる。また、これまでのアンケートの実施で見えてきた教職員の部活動への多様な考え方から、設置している部活動を学校単位で維持することが難しくなると考えられる。

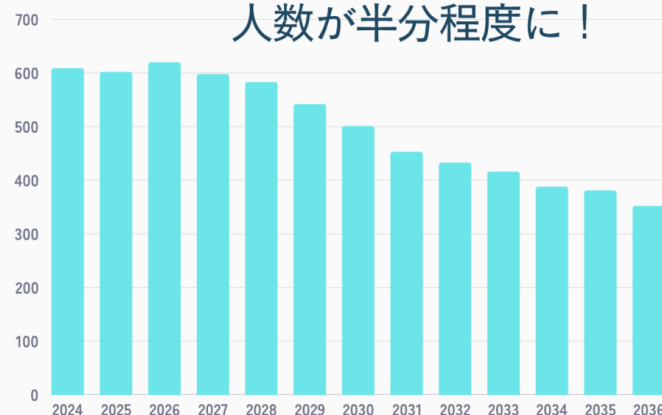
有田市として「多様なスポーツ活動や文化的活動に取り組みたい。」や「よりひとつの競技の力

を極めたい。」というような参加者が主役になる活動を実施するためには、アンケート等で実態を把握し、種目のニーズや受益者負担の考え方、送迎等の負担に関する不安などを丁寧に読み取り、必要な時期が訪れるまでに、どのような体制づくりに着手すべきかを検討を進める。

最後に、希望する教職員が地域スポーツクラブの指導者としても活躍をしてもらえるように、資格を必要とする者への資格取得の促進を行っていくことや、安心安全な指導のあり方について研修の機会を設けることが必要であると考えている。

なぜ必要？

10年先には中学生の人数が半分程度に！



【課題】

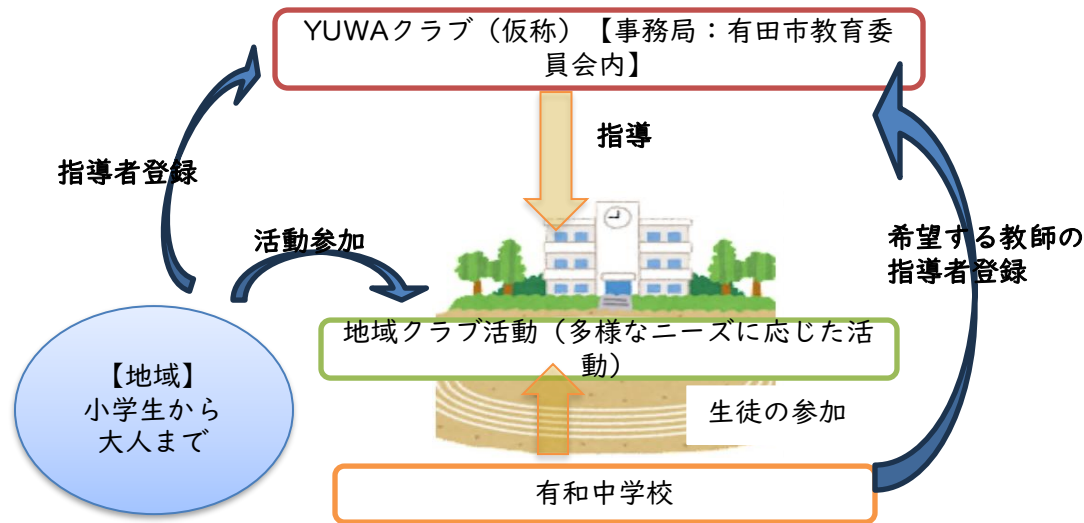
現在の有田市の出生数を考慮すると、10年先には学校単位での部活動維持は難しくなる。

出典:部活動地域連携・移行に関する取組のお知らせNo.1「有和クラブについて」

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・教育総務課・・・部活動改革の事務局、学校との連携及び調整
- ・生涯学習課・・・教育総務課との連携

◎首長部局

- ・経営企画課・・・予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年7月	有和クラブ事業説明
令和6年10月	有和クラブ実施
令和6年10月	生徒アンケート実施
令和6年11月	つくば市教育委員会とオンライン交流
令和7年1月	広報発信
令和7年2月	検討会議実施
令和7年2月	兵庫県部活動地域移行シンポジウム参加

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1校	実施した地域クラブ総数	4クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ（1部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		3クラブ
全体の指導者数	9人	全体の運営スタッフ数	10人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者(学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数(他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
有和クラブ	教育委員会運営任意団体	ホッケー	週1回	休日	中学1年生 中学2年生	令和6年10月から 令和7年2月	有和中学校	2人	2	練習試合時の移動代徴収	中体連：部活動
		軟式野球(新)	週1回	休日	中学1年生 中学2年生	令和6年10月から 令和7年2月	有和中学校	3人	3	練習試合時の移動代徴収	中体連：部活動
		剣道(新)	週1回	休日	中学1年生 中学2年生 中学3年生	令和6年10月から 令和7年2月	有和中学校	2人	2	練習試合時の移動代徴収	中体連：部活動
		柔道(新)	週1回	休日	中学1年生 中学2年生 中学3年生	令和6年11月から 令和7年2月	有和中学校	2人	2	練習試合時の移動代徴収	中体連：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績 ●サッカー教室

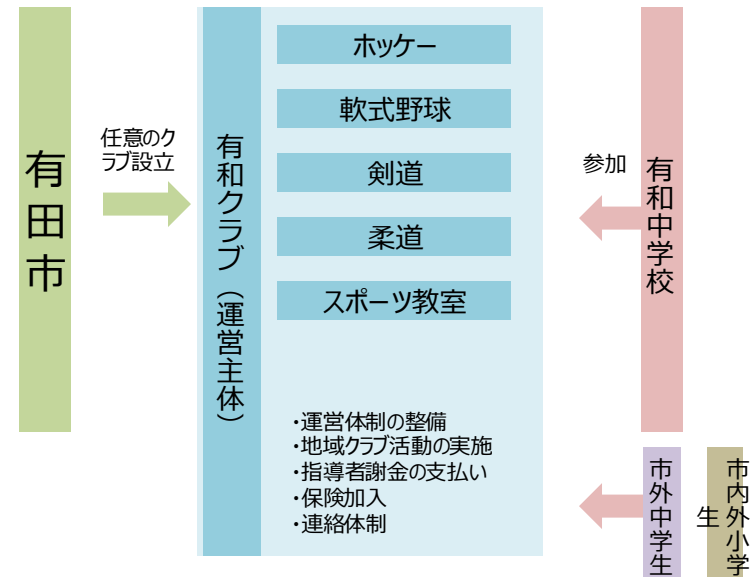
2.実証内容と成果

主な取組例

●有和クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ホッケー、軟式野球、剣道、柔道
運営団体名	有和クラブ
期間と日数	ホッケー：10月5日～2月15日 月4回程度 野球：10月6日～2月16日 月4回程度 剣道：10月27日～2月16日 月4回程度 柔道：11月3日～2月16日 月4回程度
指導者の主な属性	教員、地域指導者（市外在住2名）
活動場所	有田市立有和中学校
主な移動手段	自転車、公共交通
1人あたりの参加会費等（年額）	練習試合等での移動に係る交通費負担
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 事務局（有田市教育委員会）2名
役割：学校との連絡調整、保険加入・諸謝金等の支払い事務等を行う
- 指導者 9名
役割：技術指導、保護者対応等の活動に直接関する実務を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

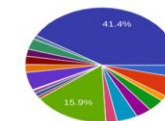
- 部活動指導員が主として指導を務めていた部活動（ホッケー）の休日の移行を行った。
- より競技性を極めたいという思いを持つ子へ、対象の種目を開設し運動機会を設けた。
- アンケートの結果からサッカー教室を開催した。

活動の詳細			
参加人数	84人、サッカー教室18名	指導者数	9人、サッカー教室3講師
属性	教員、地域指導者		
具体的な内容	①ホッケー部の休日の地域移行を試行 ②野球、剣道、柔道において希望する者への練習機会を設定 ③アンケート結果よりサッカー教室を開催		
子供の声	①部活動指導員と同じ指導者が、指導することで困った事が「ある（12.5%）、ない（87.5%）」であった。 ②よりたくさんの練習ができたことに満足感を示す者が多かった（大変満足52.8%、満足30.6%、普通16.7%、不満及び大変不満0%） ③実施が直近のため感想をとれていない。今後も継続実施の予定のため、その際にアンケートを実施する予定		
関係者の声	①学校教員で兼務の者は、自分が休んでも任せられるので助かるとの意見。地域指導者は、生徒対応に悩みを抱えていたため、事務局が助言を実施。 ②より活動を希望する者への機会提供ができたことが有り難い。新たな指導者の加入による負担軽減は助かった。 ③同世代のサッカーをしている子との交流機会が良いと感じた。		
運営経費	【①、②】 指導者謝金1,600円/1時間 （費用弁償別途支給） 保険/選手800円/指導者 1,850円 【③】 サッカー教室講師代 10,500円×3名 保険代 2,000円		

他に挑戦してみたい活動

学校にある部活動で、やってみたい部活動はありますか。
 ※学校の部活動に所属している（していた）人は、その部活動以外で選択をしてください。

459件の回答



出典：部活動地域連携・移行に関する取組のお知らせNo. 2「アンケート結果について」

陸上競技	16
軟式野球	26
ソフトボール	7
バレーボール	16
バスケットボール	15
ソフトテニス	20
卓球	11
バドミントン	73
体操	3
柔道	5
剣道	4
相撲	0
空手道	1
サッカー	23
水泳	10
ホッケー	11
音楽部	9
美術部	14
書道部	5
特になし	190

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

参加した中学生84人を対象としたアンケートを実施（回答率90%）した結果、ホッケーにおいては、部活動指導員と同じ指導者が休日の指導することで困った事が「ある（10%）、ない（90%）」であった。「ある」という回答では、活動内でのめめ事に対する悩みがあり、このような事態への対応は課題として捉えている。野球、剣道、柔道の活動は、よりたくさんの練習ができたことに満足感を示す者が多かった（大変満足68.2%、満足22.7%、普通9.1%、不満0%、大変不満0%）。野球においては、地域指導者が指導に関わることで、「いつもと違うことを聞いた」や「守備が上手くなった」などの肯定的な意見が聞けた。また、活動人数の多い休日を主に活動するため、平日の活動日を3日にすることで、時間外勤務の削減に繋がった。

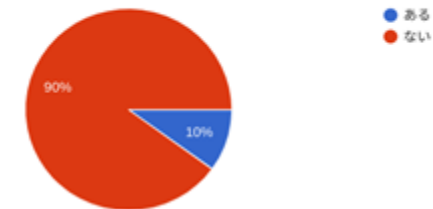
生徒向けアンケートを実施することで、今の中学生たちの生の声を聞くことができた。また、その結果よりサッカー教室を開催したことで、自チームの選手以外との関わりや、外部講師の意見を聞くことができた。

今後の課題と対応方針

今年度は、活動開始が遅れた分、予定していた活動まで至っていないことが大きな課題を残している。次年度へ向け、4月以降すぐに活動に取り組めるように、今年度参加してくれている種目関係者との協議を実施し、受益者負担を含めた方向性を検討したい。また、アンケートから把握できた多様なスポーツへの希望も含め、中学生だけでなく幅広い年代が参加で

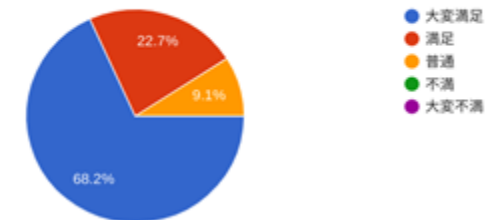
平日の部活動と同じ部活動指導員で、休日の部活動を地域移行のかたちで取り組んでもらいましたが、困ったことはありますか。

10件の回答



よりたくさんの練習をするために、休日も練習できる環境は、あなたにとって満足できる環境になりましたか。

66件の回答



実証事業参加者へのアンケートから

きる活動を展開するため、各種団体との交渉を進めるとともに、当活動の趣旨を地域企業等へ広報し、賛同いただけたところからの支援を募る体制づくりに着手する。また、指導者の確保の観点からも地域全体への広報も引き続き行いながら、教職員を含めて一定の指導者へ負担がかかる体制からの脱却できる体制を整えたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

今年度は、初年度もあり実質の受益者負担を抑えるようにし、練習試合などの対外への交通費について負担をしてもらった。生徒アンケートの実施により、受益者負担への生徒の考えを問うことができた。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

現在は事務局を教育委員会内に置いているため、実質の経費は発生していない。今後、既存団体もしくは新設の団体への委託を行う際には、P C 機器の購入から始まって、各種費用の発生は見込まれる。

■ランニングコストの分析

- ・指導者謝金 1,600円 / 1時間
 - ・事務局人件費（※現在、教育委員会が事務教のため経費無し）
 - ・消耗品費
- ※基本、既存の部活動の用具を借りての活動を行っている。次年度に必要な経費を算出する予定

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

今年度の設置部活動数や部活動加入人数をもとに、必要な人件費（指導者謝金）や、活動に対する受益者負担額を試算した。指導者2名が祝休日（R 7年度）に全ての部活動で指導した場合に、およその交通費を含めると約1,600万円の人件費が必要になる。また、月額500円を600名の生徒から徴収すると、360万円の運営費が生まれる。

【指導者謝金】					
部活数	顧問	謝金/時	時間	祝休日	謝金予想
23	2	1600	3	66	14,572,800 円
23	3	1600	3	66	21,859,200 円
23	4	1600	3	66	29,145,600 円
【指導者交通費】					
部活数	顧問	交通費/日	祝休日	交通費予想	
23	2	500	66	1,518,000 円	
23	3	500	66	2,277,000 円	
23	4	500	66	3,036,000 円	

収支バランス

収支のバランスは、今年度の受益者負担（月謝）は求めずに実施を行った。指導者への人件費を全て公費で補うか、左記のように受益者負担の一部も含めていくか、次年度の以降の取組で適切なバランスの検討を行っていく。

【受益者負担】						
全ての生徒が参画できる活動の場にし、PTA会費として毎月徴収						
	会費					
	500 円/月	×	12 ヶ月	¥ 6,000	円/人	
	1000 円/月	×	12 ヶ月	¥ 12,000	円/人	
生徒数	600 人	×	¥ 6,000 円/人/年		¥ 3,600,000 円/年	
生徒数	600 人	×	¥ 12,000 円/人/年		¥ 7,200,000 円/年	

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

生徒向けアンケートから、下記に示すような意見を得ることができた。現在、市内に設置する1中学校においては、年間2,000円の任意の保護者寄付を各家庭へ依頼している形で、それ以外、毎月徴収しているものは存在

参加費用について

- 参加費用は嫌、かからない方が良く、あまりいいと思わない、かかるなら辞めるかも、おわってる、残念
- 参加費がいるなら移行してほしい、行きたくない
- △まだ、わからない。
- △費用が高すぎると参加したくない気持ちもあるし、任されたのならやりとげたいから、参加費用を出すかもしれないから今は分からない。
- △活動内容による
- 好きでもないのに部活に何らかの理由で入っている子はあまりよく思わなさそう。
- 毎回、参加費用が必要となると行きたくてもいけないケースがあるかもしれないです。
- 今までかからなかったのに地域移行することで、費用が発生するのには納得できない。
- 少し参加しずらくなると思う
- 部活動を趣味として楽しみたい人にとっては不都合だと思う。
- かってに地域移行して参加費用が発生するのはとても勝手なことだと思う。

今後の課題と対応方針

年間の活動の中で必要な経費を算出し、その活動に値する受益者負担についての検討が必要である。今年度は、生徒にのみアンケートを実施しているが、保護者へのアンケートも実施し、検討する資料の収集に努める。

また、教員の勤務時間という点で議論をすると、生徒数の減少が見込まれる10年先よりも早い段階で、現状の部活動のかたちを維持することが、

しない。そのため、個人の道具費、練習試合等での遠征にかかる交通費など、その都度、発生する費用負担のみで活動を行っているため、「部活動には、お金がかからない」という思いが強いのがよくわかった。

参加費用について

- 税金で払うべきだと思います
- 値段がどのくらいか気になる
- 学校では参加費用がなかったのに対し、費用が発生することは少し不安がある。
- なんでお金がかかってまで地域移行するのかわからない
- 貧乏にはきつい
- △あってもしかたないと思うが、多かたらちょっとと思う
- △費用が発生するならいくことができない。でも、その分未経験の人に教えてもらうよりはうまくなると思う。
- 大まかな金額だけ知りたい。
- 参加費用が発生するのだと、少し参加人数が減る可能性がある。また、親の意見も分からない。
- 親に負担がかかる
- 金額によるけれども、やり方があまり好きではないところに高いお金は使いたくない。
- 部活動ではかからなかった費用が掛かるのは嫌だ
- 市や県、国から費用を出してはくれないのか
- 地域移行が強制だったら費用が発生するのは少し不満に思う。

現状の部活動はお金がかかっていない。
というところでの声大きい・・・

実証事業参加者へのアンケートから

難しくなることも踏まえた上での丁寧な説明を重ね、活動維持のために必要な受益者負担への理解に繋げていきたい。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

事業開始が10月からになったことにより計画を大幅に変更した。

日常的に部活動指導員が部活動の指導を行っているホッケー部について、休日の活動をクラブチームの活動として実施した。指導者は、部活動指導員と部活顧問が登録し、指導を行った。他、地域のホッケー経験者等への活動の紹介をしつつ、次年度以降の指導者確保へ繋げている。

軟式野球、剣道、柔道については、競技力の向上をより目指したいという生徒のニーズに応じて、希望する生徒が参加できる休日の活動日を設けた。指導者は、教員と地域指導者が登録した。地域の指導者が参画した活動では、参加した生徒から肯定的な声があがっている。

10月に生徒アンケートを実施し、地域移行に対する思いや部活動への思いを把握した。アンケート結果を広報として生徒及び保護者にお知らせした。また、2月に実証事業参加生徒へもアンケートを実施した。2月に検討会議を開催し、学校をはじめ各関係者の意見を交流した。

●成果の評価

ホッケー部の休日の活動をクラブチームとしての形にしたことにより、困り感を抱いた参加者が1名いたが、それ以外は特に困り感を感じていなかった。関わった教員は、クラブチーム化ということで、「自身が携われない日も活動日として設定でき、安心して任せられることが良かった」との感想であった。軟式野球、剣道、柔道では、希望する生徒が参加できる休日の活動日を設けたことに対して、満足する声が9割を超えた。また、一人一人が保険へ加入し活動する中で、急なトラブルへの対応もでき、大きな自己負担を防ぐことができた。

生徒アンケート結果に基づいて地域移行についての情報の発信が足りていないことに気づけた。広報の発信により、中学生及びその保護者、学校関係者等へ現状を周知できたことにより、運営へ興味を示してくれる地域団体も現れた。

●今後に向けて

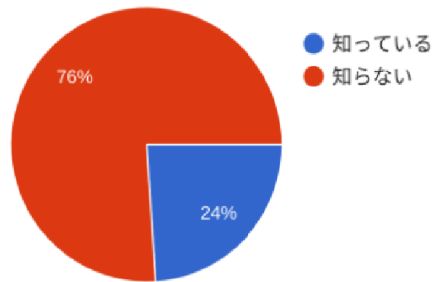
具体的な推進計画等を地域へ発信し、アンケート回答者が課題意識を持った中での回答ができる環境を作っていきたい。また、多様な生徒のニーズへ応えていくための体制づくりとしては、各種目新たな指導者の確保が必須で、また、活動する人数に対し安全面を考慮した指導者の数を鑑みた予算確保が課題になる。そうした、財政的な課題の洗い出しを含め、持続可能な運営体制の検討を重ねる。

併せて、現在教育委員会が運営しているかたちを地域の団体へ移すかたちを検討し、地域や生徒が主体になって活動する場の設定に繋がられるようにする。

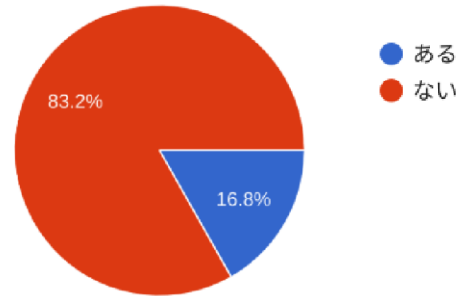
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

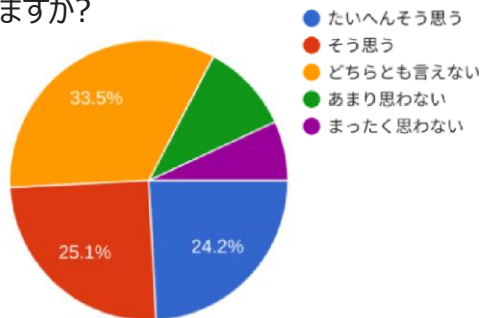
Q.部活動の地域移行について知っていますか？



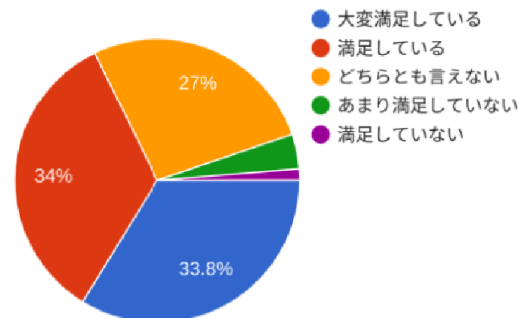
Q.学校の先生だけでなく地域の指導者に教えてもらうことに不安はありますか？



Q.所属する部活動の活動時間や活動日を増やしたり、し合いや発表の機会を増やして、もっと活発に活動したいと思いますか？



Q.現在所属する部活動の活動内容や頻度に満足していますか？



●参加者の声

Q. 今回の実証事業において、部活動の顧問の先生以外の指導者が参加することで良かったことはありますか。

A. 中学2年生

「顧問の先生が教えてくれないことや自分に合ったことを教えてくれたこと」

A. 中学2年生

「クラブ活動においての新しい知識を得ることができた。」

A. 中学1年生

「部活動の顧問の先生が普段教えないことを教えてくれた。」

指導者

地域の指導者が主で指導してくれることで、以前のように、自身の予定で、活動を休みにしないといけなくなかったので気持ちが楽になった。

指導者

選手に対する指導者の数が少なくなる活動日もあったので、保険加入だけした上で、ボランティアで指導へ来てくれる方がいたのは助かった。

アンケート結果・広報資料

アンケートの結果から、地域移行について知らない生徒が76%であった。そのため、部活動が地域移行された場合に、参加したいかどうかを尋ねても64.7%の生徒が「まだ、わからない」という回答をした。この結果から、当事者である生徒への発信を行うことが必要と考え、定期的に応報するこ

とに繋がった。なお、地元の公民館にも配布している。また、広報を見た方から、「いつまででどうなるのか」という声もいただき、子どもをはじめとする地域の方々から分かりやすい情報の発信が求められている事が把握できた。

部活動地域連携・移行に関する取組のお知らせ 有和クラブについて VOL.1

有和クラブの今後の見据えた取組

R6 1部活以上の林日の部活動が地域移行

- ・部活動指導員を導入している部活動から
- ・アンケートから
- ・学校が希望する部活動から

R7 新たな部活動の地域移行+個人負担の削減

- ・実施部活の継続
- ・受益者負担の取り組み
- ・新たな実施部活の導入

R8 主体以降

- ・特約可能な特等指導員
- ・初からの継続
- ・運営主体の切り替え
- ・地域企業との連携的な連携
- ・大会への参加のあり方の検討

文部科学省から全国の自治体に、令和5年から令和7年までを「改善推進期間」と位置づけ、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブへ移行することについて、地域の実情等に即応して可能な早期の実現を目指すようご依頼がなされています。

有和クラブでは、今年度より中学校にある形での地域連携・地域移行に関する実証事業の取組を実施しており、上記のようなイメージで取組を進めていく計画を立てています。

今回のお知らせでは、「なぜ、取組が必要なのか」や「何をやるのか」をお伝えしたいと思います。

また、このことに関する全国的な取組については、「部活動改革ポータルサイト～学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行（地域移行）に向けて～」
(https://www.mext.go.jp/sports/h_menu/sports/mcasetop/01list/1372413_00003.htm)をご覧くださいませ。

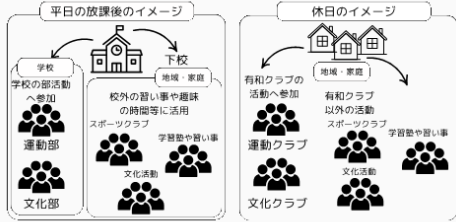


何をやるの？① 指導者の確保をします。

「生徒数の減少」＝「教職員数の減少」です。そのことは、専門性を持つ顧問の先生の数の減少につながります。現在も部活動指導員として外部指導者の導入をしている部活が数部ありますが、地域移行の取組を進める中で、専門性の持つ指導者による指導が、どの活動でも実現できるように学校の先生も含めて協力してもらって指導者の確保に努めていきます。

何をやるの？② まずは土日の活動を地域へ展開

まずは、休日の部活動から地域への展開を目指していきます。そのために、有和市教育委員会、有和クラブという団体を今年度創りました。図のように有和クラブに所属してもらって、現在加入している部活動と同じ活動ができるように整備していきます。



何ができるの？ 地域展開で活動の幅を広げられる

部活動を地域へ展開することで、

- ☆「学校部活動にはない活動の選択肢が広がる」
- ☆「種目の種目に所属できる」※現在の中学生の大会は1競技のみの出場になっています。
- ☆「中体連以外の大会への参加もできる」
- ☆「積極的に活動したい人は活動にできる、ゆるく活動したい人はゆるくできる選択肢ができる」
- ☆「どの活動にも専門性のある指導者がいる」
- ☆「有和中学校以外の中学生も参加できる」
- ☆「活動の内容により、世代を超えた多様な関わりができる」

など、今は違った活動の形が想定できます。

有和市として、部活動の地域への展開を行うことで、一人ひとりの活動の選択肢や幅を広げ、多様な人間関係を作る新しいまちのコミュニティの場になる場所として有和クラブの活動を考えたいと思っています。

大気情報について

広報No.2では、前期中生者の皆さんにご協力いただいたアンケートの結果をお知らせします。

部活動地域連携・移行に関する取組のお知らせ 生徒アンケート結果 VOL.2

部活動の地域移行に関するアンケート結果

10月に有和中学校生徒に依頼し、部活動の地域移行に関するアンケートを実施しました。結果、459名（1年生143名、2年生125名、3年生91名）の方から回答をいただきました。生徒の皆さんご協力ありがとうございました。アンケートの結果について、下記のように結果を共有させていただきます。



RESULT① 部活動の満足度
「67.8%が肯定的回答」

「現在所属する部活動の活動内容や頻度」に満足しています(グラフ①)という質問に対して、「大変満足している」が33.8%、「満足している」が34.0%という結果となりました。

自由記述でしたが、多くの人が「好き」という感情を表現してくれました。

理由をまとめると、「友達を囲む(生徒同士)のつながりや先生とのつながりなどの「人間関係」や「楽しさ」と「達成感」などの理由が主となっていました。

自由記述でしたが、多くの人が「好き」という感情を表現してくれました。

理由をまとめると、「友達を囲む(生徒同士)のつながりや先生とのつながりなどの「人間関係」や「楽しさ」と「達成感」などの理由が主となっていました。

RESULT② 部活動への思い
多くの人が部活動が「好き」

自由記述でしたが、多くの人が「好き」という感情を表現してくれました。

理由をまとめると、「友達を囲む(生徒同士)のつながりや先生とのつながりなどの「人間関係」や「楽しさ」と「達成感」などの理由が主となっていました。

RESULT③ 部活動の地域移行の認知度について

今回のアンケートで「地域移行」について「知らない」が76%で圧倒的に認知度が低く、地域移行のイメージがないので「部活動が地域移行された場合、参加したいか」への反応は「まだ、わからない」が64.7%という結果になりました。

RESULT④ 地域移行への不安

地域移行した際の不安を問う質問では、「わからない」や「特になし」が多数を占める中、「活動場所が学校外になった場合の交通問題」や「指導者への不安」、「練習内容が変化することへの不安」などの声がありました。

指導者への不安の声がある中で「学校の先生だけでなく地域の指導者に教えてもらうことに不安はありませんか」に対する回答は「ない」が83.2%でした。

RESULT⑤ 地域移行への期待

期待に関して「特になし」が多かったが、「活動への興味はある」や「地域の人とのつながりが増えることへの期待」、「より上手な人と練習できるかもしれない」、「たくさん練習できる」などの声がありました。

なお、活動場所や時間、活動日等の希望に対する質問では、「今と同じ程度」の活動を求める声が多い中で、「休年度」や「自由参加」、「季節ごとの活動時間変更」、「より環境のよい場所」などを望む声もありました。

また、参加費用については「わからない方が多い」が多数でした。

RESULT⑥ 所属部活動以外で挑戦してみたい活動

他に挑戦してみたい活動

学校にある部活動で、やってみたい部活動はありますか。
※学校の部活動に所属している(していた)人は、その部活動以外で選択してください。

459件の回答

陸上競技	16
軟式野球	26
ソフトボール	7
バレーボール	16
バスケットボール	15
フットボール	20
卓球	11
バドミントン	73
体操	3
柔道	5
剣道	4
相撲	0
空手道	1
サッカー	23
水泳	10
ボウリング	11
音楽部	9
美術部	14
書道部	5
特になし	190

RESULT⑦ 学校にない。けど、やってみたい

多くの人が、現在所属する活動以外にも興味を持っている活動があることがわかりました。

すべての意見を実現することはできませんが、できる活動から実現していけるように検討を重ねていきたいと思います。

NOTICE 部活動の地域移行ってどんなもの？

全国の部活動の地域移行についての取り組みが掲載されているサイトを紹介します。

今回のアンケートで興味を持たれた方は御覧ください。

「部活動改革ポータルサイト～学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行（地域移行）に向けて～」
https://www.mext.go.jp/sports/h_menu/sports/mcasetop/01list/1372413_00003.htm

【生徒・保護者向け広報（通信）】

出典:部活動地域連携・移行に関する取組のお知らせ

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【ホッケー活動様子】



【剣道活動様子】



【サッカー教室様子】

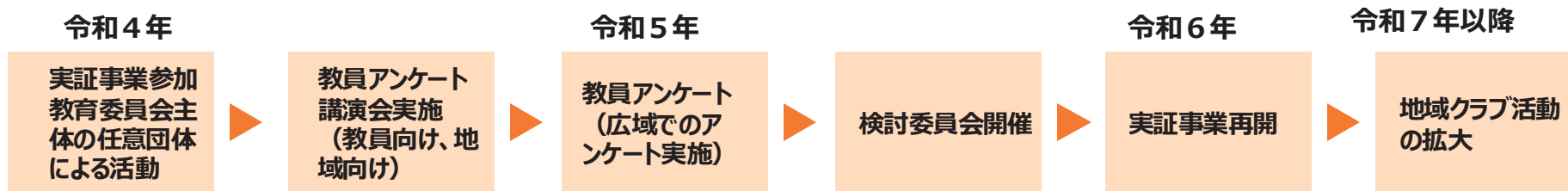


【野球活動様子】



【柔道活動様子】

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

学校、体育協会、スポーツ推進委員
市教委、地域活動団体

経過

令和4年度に実証事業に参加し、当時設置されていた3中学校の協力のもと、教員及び地域関係者に対する講演会を開催した。また、中学校長と本件に関する連絡を継続的に実施。令和5年度に検討委員会を開催し、現状の報告を行い、学校や関係団体と意見交流を実施。令和6年度、市内1中学校に統合されたことにより、事業開始は遅れたが、必要性を学校へ説明した上で開始した。

実施内容

10月からは市内1中学校の1部活動において休日の部活動をクラブチームとしての活動に移行した。また、より活発な活動を望む生徒のニーズに応えるための環境として、3競技クラブを設置し活動の機会を設けた。2月には、アンケートの結果から、サッカーへの興味がある生徒が多かったため、サッカー教室を開催した。

実施にあたって生じた課題

1 中学校に統合されたことにより、人数の減少による活動維持困難という課題がなくなったことにより、以前よりも課題意識が薄まっている。しかしながら、2年連続で実施した教員アンケートにおいては、地域移行が必要と感じている教員が一定数いることから、開始時期を遅らせながら慎重に説明を重ねて事業を開始した。指導者の確保を行うことを目指し該当する協議関係者への声かけを行ったが、指導者同士の考え方にも差があるため、合意に至らない状況であって、今も確保へ向けての検討を行っている。

事務局を行政で持つことのメリット（管理面）もあるが、会計面ではデメリット（支払い関係、予算流用等）があることに直面した。

今後の展開

令和7年4月以降も活動を継続できるチームから継続するとともに、新たな競技クラブの参入、子どもが主体になる新しい活動を展開していきたい。また、受け皿となる団体との令和8年度以降を見据えた体制づくりの協議も並行して行う。

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

有田市の中学校部活動の今後を見据えた取組

R6

1部活以上の休日の 部活動地域移行

- ・ 部活動指導員を導入している部活動から
- ・ アンケートから
- ・ 学校が希望する部活から



R7

新たな部活動の地域移行+個人負担の開始

- ・ R6実施部活の継続
- ・ 受益者負担の取り組み
- ・ 新たな実施部活の参入



R8以降

運営主体を含め活動維持が可能な体制整備

- ・ R7からの継続
- ・ 運営主体の切り替え
- ・ 地域企業との本格的な連携
- ・ 大会への参加のあり方の検討

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

和歌山県 紀美野町

自治体名：和歌山県 紀美野町

担当課名：教育委員会教育課

電話番号：073-489-5910

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	1 2 8 . 3 4 km ² (R 6 . 1 1 月末時点)
人口	7 6 6 7 人 (R 6 . 1 1 月末時点)
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	1 4 3 人 (R 6 . 1 1 月末時点)
部活動数	1 0 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	未設置
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、当町の運動部活動は、軟式野球部、男子バスケットボール部、陸上競技部、ソフトテニス部、水泳部、駅伝部の6つが活動している。

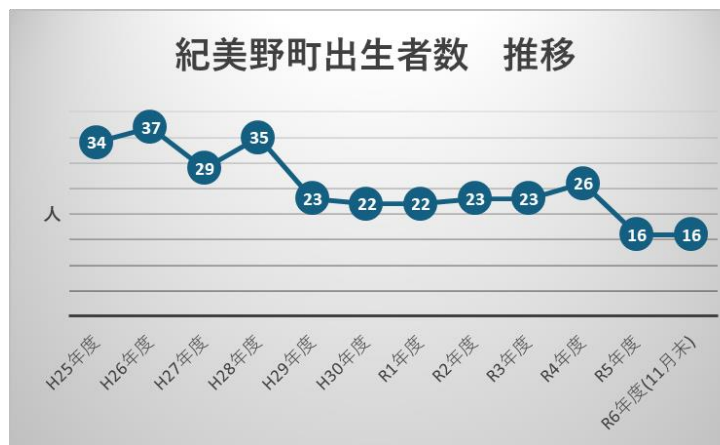
少子化に伴い、サッカー部や女子バスケットボール部、女子バレー部等廃部になったり、最近年度により軟式野球部や男子バスケットボール部等が他の中学校と合同チームによる活動を行うこともある。

昨今の出生者数を見ると団体スポーツの将来的な存続は難しいものと考えている。

改革推進期間である3年間で、成績や勝敗にこだわらず種目にとらわれない「身体づくり」「運

動習慣の確立」を主体とした活動を第一に進め、生涯スポーツに親しむ素地を育む。同時に教職員の働き方改革の推進を目標とし地域移行を進める。

また、長年にわたって部活動は、学校教育の一環で運営するものという考えが生徒、保護者、地域に根付いている。今後、地域移行に当たり部活動が教育課程外のものであることを関係者が認識することが必要である。同時に地域移行推進にあたって学校の教職員以外の地域内外・大学生等を含めた広範囲から指導者の掘り起こし、確保も同時に進めていかなければならない。



出典:住民基本台帳人口世帯数を基に作成

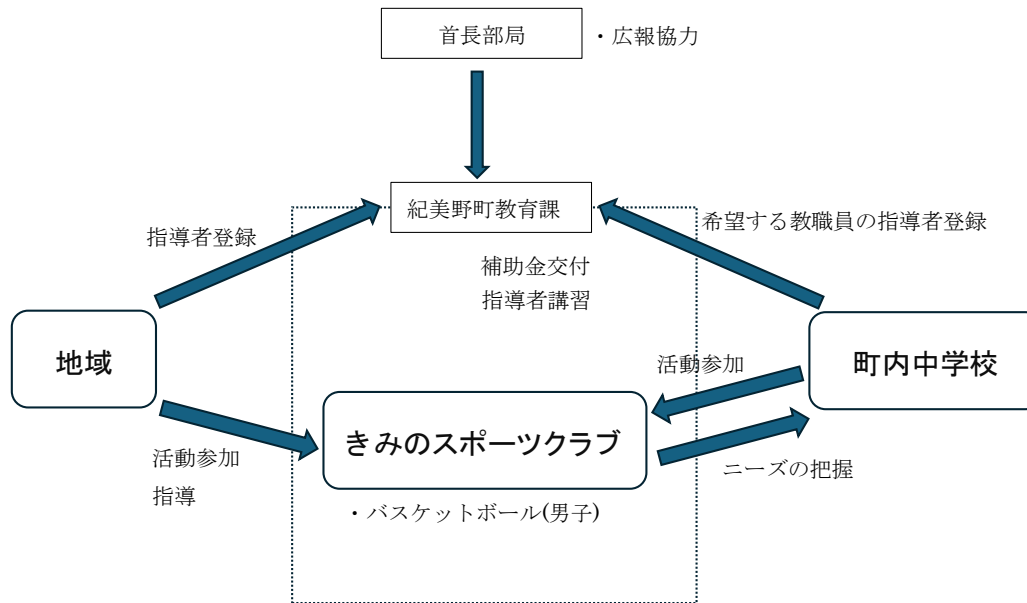
【課題】

現在の紀美野町の出生数を鑑みると、今後減少傾向はますます大きくなるのが想定される。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育課

- ・学校教育班・・・部活動改革の主幹、学校との調整・連携、指導者の発掘
指導者事務関係調整
- ・生涯学習班・・・社会体育団体との調整

◎首長部局

- ・総務課・・・広報協力

年間の事業スケジュール

令和6年7月	事業計画の策定
令和6年8月	指導者の発掘
令和6年9月	運営体制の確定
令和6年10月	男子バスケットボール部の実施
令和6年11月	指導者の発掘
令和6年12月	事業の見直し

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ（1部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	4人	全体の運営スタッフ数	11人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
きみのスポーツクラブ	任意団体	男子バスケットボール部 (新)	約月5回	休日 8:30~ 12:30 (大会等により不規則)	中学1年生 5人 中学2年生 7人	R6.10.1 ~ R7.3.31	野上中学校体育館	4人	11人 (内、兼務5人)	月会費 500円	中体連：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

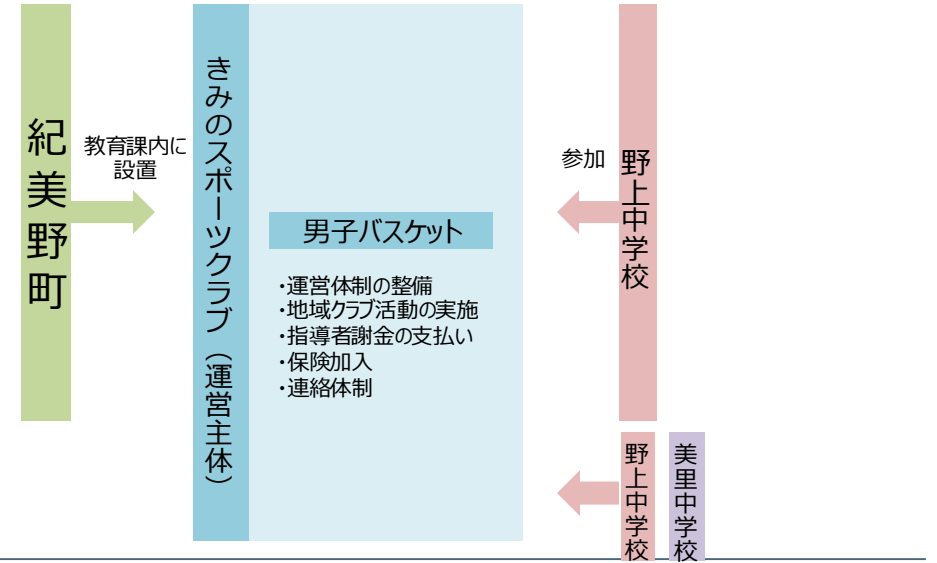
- 特になし

主な取組例

●きみのスポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	男子バスケットボール
運営団体名	きみのスポーツクラブ
期間と日数	男子バスケットボール 令和6年度10月1日～ 令和7年度3月31日 月5回程度（など）
指導者の主な属性	地域住民（保護者） 大学生
活動場所	紀美野町立野上中学校体育館
主な移動手段	自転車、スクールバス
1人あたりの参加会費等（年額）	男子バスケットボール：6000円 (R6年度は10月からのため、3000円)
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者
 - 役割：補助金交付等の決裁を行う
- 主任指導者 2名
 - 役割：主な指導や大会での作戦指示等を行う
- 指導者 2名
 - 役割：生徒への技術・作戦指導のサポート
- 運営補助者 6名
 - 役割：運営に関する庶務、雑務を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

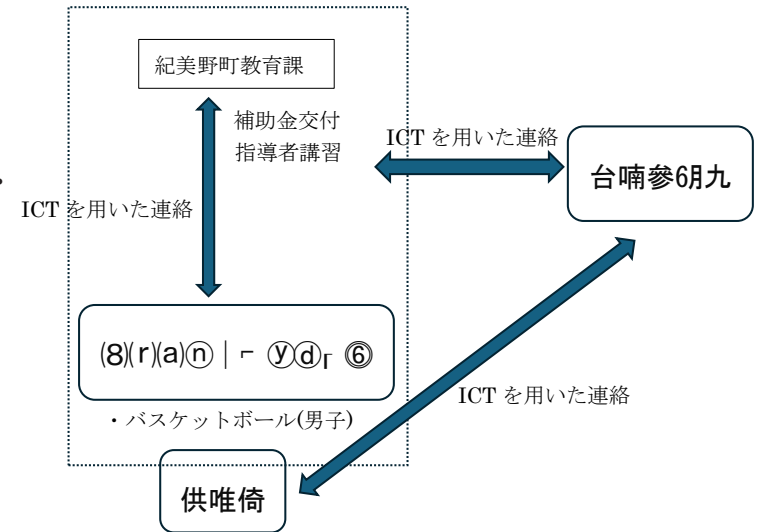
●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 「きみのスポーツクラブ」の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。
- 指導者への連絡、会計業務等にICTを活用する。

取組の成果

- 運営団体・実施主体と中学校との連絡を密に図り、運営を行うことができた。
- ICTの活用により、運営団体・実施主体と中学校、指導者との連絡をこまめに行い、柔軟性のある指導・運営につなげることができた。



出典:紀美野教育課内作成

コーディネーターの具体的な動きの実績

統括コーディネーターは未設置。

今後の課題と対応方針

- コーディネート業務を担うシステムの構築、人材の発掘を行う必要がある。
- 持続可能な運営ができる組織体制の整備。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ・地域在住のバスケットボール経験者（保護者）に指導者依頼を行う。
- ・和歌山大学、近畿大学に、指導者としての学生の派遣を依頼する。
- ・和歌山県教育支援課、スポーツ課を通して指導者の発掘を行う。

人材バンクの人数

0名

人材バンクの年齢構成

10代	0名
20代	0名
30代	0名
40代	0名
50代	0名
60代以上	0名

登録者属性

職業

- ・会社経営者 1名
- ・自営業 1名
- ・学生 2名

人材バンクを知った理由

種目

- ・バスケットボール

資格有無

- ・中学校、高等学校教員免許（保健体育）を取得見込み
- ・小学校、特別支援学校、中学校・高等学校教員免許（外国語）を取得見込み

取組の成果

- ・地域在住のバスケットボール経験者（中学生保護者）から指導者を2名、大学生から指導者を2名の合計4名を確保した。
- ・専門的な指導者がいない中、教員が手探りで指導していることが課題であったが、指導者4名を確保したことで、生徒がより専門的な指導を受けられるようになった。
- ・教職員の指導に対する負担感が軽減した（聞き取り調査より）。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

- 指導経験の少ない指導者が、指導の現場で指導経験の豊富な指導者とともに、オン・ザ・ジョブ・トレーニングを実施した。
- 指導者と中学校教員等が対話し、生徒の実態把握を行い、ニーズに合った指導を行えるようにした。(情報交流)

指導者研修の参加実績

- ・オン・ザ・ジョブ・トレーニングを1度実施することができた。
- ・上記、情報交流は各指導者(4名)ごとに不定期で行った。

受講者の声

- オン・ザ・ジョブ・トレーニングを受けた指導者の声
「生徒にどのような声をかければよいか参考になった。」
「複数の指導者がいる場合の役割分担などがわかった。」
- 情報交流後の地域クラブ指導者の声
「対話することで、指導の方向性が明確になった。」
「対話をすることで、生徒個々へのより具体的な指導を考えることができた。」

今後の課題と対応方針

- 指導者には、公的な指導者研修会の機会を確保したかったが、その場を設定することができなかった。
- 指導者間の効率的・効果的な連携ができなかったため、今後検討する必要がある。
- 中学校教員がボランティアでサポートしてくれることがあった。働き方改革の観点からも体制の再検討が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○学校と連携して進めていくため、紀美野町校長会において、紀美野町の取組及び今後の見通し等の説明を行った。

○指導者の派遣について和歌山大学と連携した。

○スクールバスを活用できるようにし、生徒の活動場所までの移動手段を確保した（今年度は使用なし）。

取組の成果

○紀美野町校長会において、紀美野町の取組及び今後の見通し等の説明を行うことで、中学校だけでなく、小学校校長にも取り組みの理解をいただくことができた。

○和歌山大学とは他の事業で連携を行っているが、本事業でも連携を行い、関係を深めることができた。その中で、将来教員現場に出る時に生かせる学びが得られたとの学生の意見をいただいた。

○生徒の活動場所までの移動手段にスクールバスを活用することで、生徒・保護者の負担軽減を目指した。

バス等の運行実績

・利用者数 0人

バス等の運航経費・収入

・人件費
実証事業に関わっては特になし。

・利用料
実証事業に関わっては特になし。

今後の課題と対応方針

○大学生に指導者に入っていた場合、大学卒業のタイミングで指導者を続けてもらえない可能性がある。安定した指導者の確保等を行うためにも、大学側と更なる連携強化を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

○指導者の確保については、地域、大学、県教育委員会と連携して実施した。

各自治体の役割

- 紀美野町教育委員会
- ・地域クラブ運営、予算管理
- ・関係機関との連絡、調整
- ・理解促進に向けての広報
- ・諸謝金等の事務処理

移動手段

○平日における地域クラブ活動の終了時刻を学校部活動の終了時刻とそろえることで、地域クラブ活動に参加した生徒が、学校のスクールバスに乗り、帰宅できるようにした。

事務局運営の方法

○紀美野町教育課内に「きみのスポーツクラブ」を設置したので、事務局の運営は教育課の職員が分担して行った。今後事務手続き等が増え事務局の負担が増えることも考えられるため、事務局運営体制の検討が必要である。

取組の成果

- 多方面に指導者確保の依頼をすることで、多様な属性の指導者を確保できた。
- ・地域住民（保護者）の指導者 2名
 - ・大学生の指導者 2名

今後の課題と対応方針

- 移行に取り組む運動部活動を増やす。
- 他市との協力体制を構築し、より生徒のニーズに応じた活動ができるようにする。
- 平日における地域移行を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○生徒の「大会で良い成績を収めたい」という思いと、「自分たちで練習を組み立てながら楽しく取り組みたい」という思いを反映した運営を行った。具体的には、平日には生徒中心で練習を行い、休日には練習試合等も複数回設定した。

○学校教員の力も借りながら、生徒の思いを聞き取り、生徒ニーズの把握に努めた。

活動の詳細			
参加人数	12人	指導者数	4人
属性	任意団体		
具体的な内容	・紀美野町立野上中学校 男子バスケットボール部の平日、休日の部活動について、可能な限り地域移行を行った。		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> ・「大会で良い成績を収めたい」 ・「自分たちで練習を組み立てながら楽しく取り組みたい」 		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒が専門的な指導を受けられるようにしたい」 ・「専門性がないので、バスケットボールの指導に不安がある」 ・「生徒がいきいきと活動できるクラブ活動にしたい」 		
運営経費	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者 時給 1400円 交通費 1km 35円 ・保険料 指導者 1人 1850円 生徒 1人 800円 		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

- 指導者・教職員・生徒の意見を聞き取ったところ、以下のような意見が聞かれた。
- ・専門的な技術指導を行える教員がいなかったが、地域移行を行ったことで、生徒が専門的な指導を受けられるようになった。（教職員）
- ・地域移行を行ったことで、指導者から専門的な指導をもらえるようになり、教職員としての指導に対する負担が減った。（教職員）
- ・地域クラブ指導者と部活動顧問が連携、情報交換することにより、地域クラブ活動の時間の指導方法や練習方法を生かしながら、学校部活動の時間にも指導をすることができた。そのことにより、学校部活動の時間の質も上がった。（教職員）
- ・生徒がいきいきと活動に取り組んでくれたことがうれしかった。（指導者）
- ・生徒が力をつけ成長していく姿が見られてよかった。（指導者）
- ・大学生の指導者は自分達と年齢が近く、わからないことを気軽に聞くことができた。（生徒）
- ・地域クラブ指導者のおかげで新たな練習メニューが加わって良かった。（生徒）

今後の課題と対応方針

○紀美野町は今年度末に中学校の統合を控えている。新中学校では今まで全員参加だった部活動への参加が任意となるため、現状では今後学校のクラブ活動がどのように運営されていくのか、予測しづらい状況にある。

→新中学校が開校し次第、こまめに教員・生徒のニーズを把握し、地域移行を柔軟に行えるようにしたい。

○指導者の安定的な確保ができていない。→引き続き多方面への広報・働きかけを続けていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行なっていく必要があることから、適切な受益者負担額の設定や、公的資金のバランスについて検証を行なった。
○地域クラブ活動で公共施設を使用する場合の使用料を無償とした。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

0円（今年度は既存システムを使用したため）

■ランニングコストの分析

・指導者謝金（273,000円）
・指導者旅費（42,000円）
・消耗品費（65,592円）
・印刷製本費（12,980円）
・保険料（指導者 7,400円）
（生徒 9,600円）
（システム手数料 280円）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

・持続的な運営に必要な受益者負担額の試算を行った（検証結果の詳細は次ページ参照）。

収支バランス

・持続的な運営に必要な収支バランスの試算を行った（検証結果の詳細はスライド15参照）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

○運営主体の収支構造を3つに分けて検証を行い「スポーツ活動費（保険料）」については、生徒の保護者等や指導者自らが負担すべきものとする。また、「事務局運営費」については、今年度は既存のシステムの中で運営を行ったので0円であるが、事務局運営費が発生したとしても、生徒へ直接的に支援している経費ではないので、国費や市の自主財源等を活用する。よって、「スポーツ活動費」を受益者負担の対象に検証を行っていくこととする。

○受益者負担額の設定においては、「1ヶ月単位」で、活動の参加有無に関わらず申込者全員で負担する方法をとった。負担額は、保護者の負担感も考慮し、学校部活動時の部費と同額である1月 500円とした。

項目	費用	割合
スポーツ活動費	399980	95.8%
諸謝金	273000	
諸謝金(指導者)	273000	
消耗品費	72000	
印刷製本費	12980	
旅費(交通費)	42000	
スポーツ活動費(保険料)	17280	4.2%
生徒	9600	
指導者	7400	
システム手数料	280	
事務局運営費	0円	0.0%

①	活動月数	6カ月
②	申込者数	12人
③	延べ参加人数	72人

399980 (スポーツ活動費)	÷	6 (月数)	÷	12 (申込者数)	=	5555.2... (1月あたりの 受益者負担額)
---------------------	---	-----------	---	--------------	---	---------------------------------

今後の課題と対応方針

○今年度の実績をもとに受益者負担額を試算すると、1月あたり約5,555円となり、今年度の受益者負担額の10倍以上となり、今年度の活動形態では将来運営が難しいと分かった。

○スポーツ活動費に絞って、参加者に負担を求める場合であっても、一定の人数の参加がなければ賄えないことになり、持続可能性に視点を置いた

時にあやうい。一方で必要経費すべてをまかなえるように受益者負担を求めると、保護者の負担感が大きくなり、現状の学校部活動との差異も大きくなり、地域クラブ活動への移行に理解が得難くなる。低廉な受益者負担を求めたうえで、少なからず企業の協賛や行政の支援が必要であるため、持続的に活動することを前提とした仕組みを構築する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等③

項目	費用
スポーツ活動費	806980
諸謝金	560000
諸謝金(指導者)	560000
消耗品費	150000
印刷製本費	12980
旅費(交通費)	84000
スポーツ活動費(保険料)	生徒等負担
生徒	
指導者	
システム手数料	
事務局運営費	0円

○R6年度は6カ月の事業実施であったが、12カ月間事業を実施すると想定し、スポーツ活動費をR6年度を参考に算出した。

○スポーツ活動費(保険料)は生徒負担、事務局運営費はR6年度同様0円と想定し、スポーツ活動費のみを受益者負担として考えた。

○申込者数を、10人～30人までの間を想定し、1月あたりの受益者負担額を算出した結果、左の表のようになった。30人の申込者数があった場合でも、受益者負担額は2000円を超え、現在の学校部活動の部費500円の負担を大きく上回る。このことから、学生から大人まで、幅広く参加できるクラブを運営していく必要がある。

806980 (スポーツ活動費)	÷	12 (月数)	÷	10 (申込者数)	=	6724.8… (1月あたりの 受益者負担額)
806980 (スポーツ活動費)	÷	12 (月数)	÷	20 (申込者数)	=	3362.4… (1月あたりの 受益者負担額)
806980 (スポーツ活動費)	÷	12 (月数)	÷	30 (申込者数)	=	2241.6… (1月あたりの 受益者負担額)

出典:きみのスポーツクラブ作成

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

○地域クラブ活動の主な活動場所を、学校部活動の活動場所と同じ場所にした。 ○地域クラブ活動として実施する際も学校施設、学校備品を無償で活用できるようにした。

取組の成果

○地域クラブ活動として実施する際に学校施設（中学校の体育館）を活用できるようにしたことで、生徒が学校部活動と同じような流れで地域クラブ活動に参加できた。
○地域クラブ活動として実施する際も学校施設、学校備品を無償とすることで、地域クラブ活動の負担を少なくした。
○地域クラブ活動として実施する際に学校備品を無償で活用できるようにしたことは、学校部活動から地域クラブ活動へのスムーズな移行を行う一助となった。

今後の課題と対応方針

○地域クラブ活動として実施する際に学校施設の無償使用を許可したが、特に土日の活動については、学校施設の利用に関して、学校教職員の支援も借りていた。今後持続可能な運営、教職員の働き方改革の観点から、学校教職員に頼らない学校施設利用システムの構築を行う。
○学校備品の破損等も考えられることから、地域クラブの備品を充実させていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組 平日の移行

取組事項

○取り組み推進の観点から、休日だけではなく平日も含めた地域スポーツクラブ活動への移行に向けた取組等を実施し、課題の抽出や課題解決策の検討等を行った。

○具体的には、休日に加えて、平日の一部の学校運動部活動を地域クラブ活動に移行した。

取組の成果

○平日においても数日地域クラブ活動として実施することができた。

○平日に地域クラブ活動を実施しやすいように、活動場所を野上中学校の体育館としたことで、部員は特別に移動することなく、地域クラブ活動を行えた。

○平日の地域クラブ活動の時間を学校部活動の時間と同じにすることで、地域クラブ参加後の帰宅にスクールバスを活用できるようにした。今年度スクールバス利用の生徒はいなかったが、今後に向けての1つの形を提示できた。

○様々な職種の指導者を4名確保できたことで、平日でも指導に入っていただくことができた。

指導者の属性や配置の工夫

・指導者の属性
大学生

・配置の工夫
なるべく早く指導者の予定確認を行った。

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

・平日実施における指導者が大学生ということもあり、部活動顧問も地域クラブ活動の場に可能な範囲でサポートに入ってくれた。その場で部活動顧問と指導者が直接対話することで連携を行った。

今後の課題と対応方針

○平日の指導者の確保が課題となった。今後も多方面に働きかけを行い、引き続き指導者の確保に努める。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年度10月から、紀美野町立野上中学校男子バスケットボール部において、運動部活動の地域移行を行った。

成果としては、大きく次の2点が挙げられる。①生徒・学校教員のニーズに応じた指導を行えたこと ②複数人の指導者を確保できたことである。

課題は、①指導者の安定的な確保 ②地域クラブ活動の定期的な開催 ③教職員の負担の軽減 ④受益者負担による運営 など多数見つかった。

来年度、新設中学校が開校され、学校部活動への参加が任意になることから、生徒・保護者のニーズは大きく変わることが予想される。生徒・保護者の思いを丁寧に把握し、今回の実証事業の中で見えてきた課題解決に取り組みながら、引き続き男子バスケットボール部の地域移行を行っていききたい。そして他の運動部活動についても地域移行を行えるよう準備を進めていきたい。また持続可能な地域クラブ運営を見据え、隣接市町との合同での地域移行についても連携を取りながら検討していきたいと考える。

●成果の評価

①生徒・学校教員のニーズに応じた指導について

本実証事業を受ける際に、生徒からの「大会で良い成績を収めたい」「自分たちで練習を組み立てながら楽しく取り組みたい」という思い、教職員からの「専門性がないので、バスケットボールの指導に不安がある」「生徒がいきいきと活動できるクラブ活動にしたい」という思いがあった。半年間の実証事業の中で、このような生徒・教職員のニーズに応えた指導ができた。

②複数人の指導者の確保について

今回、地域住民(保護者)から2名、大学生から2名と複数名の指導者を確保できたことで、地域クラブ活動実施日を増やすことができた。また様々な属性の指導者が確保できたことで、全体での指示を出す指導、生徒の中に入りながら行う技術指導など、多様な指導形態をとることができた。

●今後に向けて

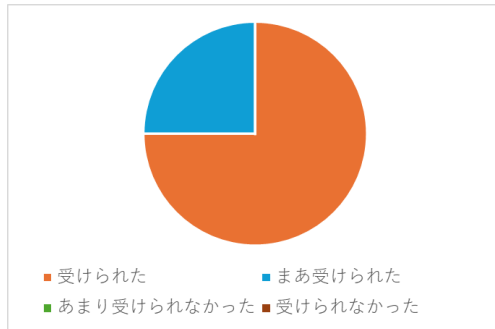
総括に記載した通り課題は多岐にわたるが、新設中学校での部活動の状況を踏まえながら運動部活動の地域移行を推進していきたい。特に運営財源の確保、安定した指導者の確保については、優先的に検討を重ねる必要がある。

また紀美野町だけの取り組みでは、持続的な活動が難しくなる。近隣市町との連携を深めながら、更なる地域移行を進めていきたい。

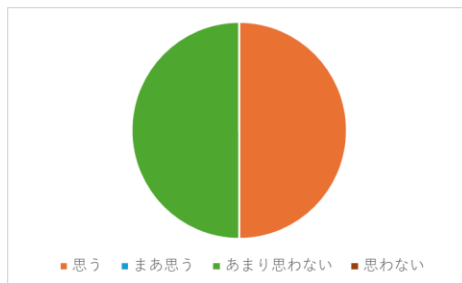
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

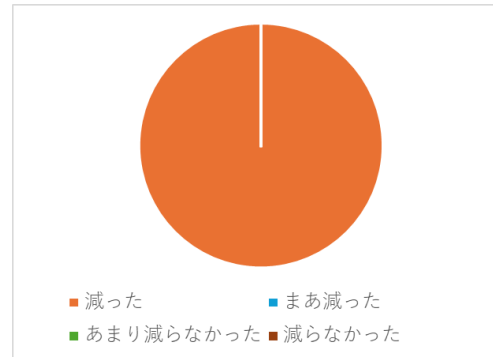
Q.地域クラブ活動への移行の取組が始まったことで、より専門的な指導が受けられましたか。【対象：生徒】



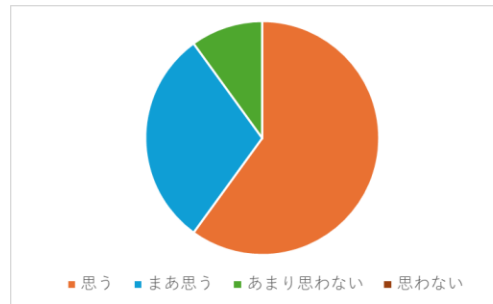
Q.地域クラブ活動の指導者となって良かったと思いますか。【対象：指導者】



Q.地域クラブ活動への移行が始まったことで、教職員の負担は減りましたか。【対象：教職員】



Q.地域クラブ活動の時間では、子ども達の思いにあったクラブ活動ができたと思いますか。?



●参加者の声

中学生

- ・指導者のおかげで新しい練習メニューも加わってより楽しくなり、もっと強くなるという気持ちが高まった。
- ・限られた時間でみっちり教えてもらえるので、バスケットがより楽しくなりました。
- ・バスケットを詳しく教えてもらえて良かったけど、放課後があまり見てももらえなかったのが残念でした。
- ・中学校での部活動を継続してほしい。この先、地域クラブ活動になり、他の場所に行かないといけなくなるのならいやだ。

教職員

- ・専門的な練習やアドバイスは子ども達にとって大いに価値がある。教師だと専門外で持つことが多く、負担が大きい。指導者の人選（教育的配慮がなされるのか）が大切である。

指導者

- ・まだ指導者としての時間がまだ少なくこれからですが、子どもたちが頑張れる環境と保護者の方の協力や支持が得られるようになり、地域クラブとしての活動はまだ課題が多いと思います。
- ・保護者であり指導者であるので、子供の引退と共に指導の時間も取れない為、次の指導者を継続して探して欲しいです。成果は週末数時間しか見れないので、平日の短い練習時間が大切になると思った。ずっと見てあげられないので、練習の成果が見えてこないのが残念でした。

保護者

- ・教職員の方々の負担も少なく、クラブの知識のある外部コーチが入ってくださる事は大変有り難いと思います。
- ・子供達が楽しそうに活動できているのでいいと思います。
- ・放課後に練習を指導してもらえるコーチがあれば良いと思います。

2.実証内容と成果③

アンケート・広報資料

○バスケットボール部 部員募集のためのポスターを作製した。まずは野上中学校内に掲示し、中学生の部員募集に活用した。



【参加啓発チラシ】

出典:きみのスポーツクラブ作成

○バスケットボール部の生徒・保護者・指導者・教職員を対象に実証事業に関するアンケートを行った

令和7年 1月 10日

野上中学校【バスケットボール部】の皆様へ

紀美野町教育課

野上中学校【バスケットボール部】に関するアンケートへの御協力をお願い

現在、紀美野町では、学校で行われていた部活動を地域クラブ活動へ移行する取組を推進しています。その取組の一環として、令和6年度10月1日より国の実証事業を受け、野上中学校バスケットボール部の活動の一部を地域クラブ活動に移行し、教職員以外の方に指導者に入っていただくなどしながら活動を進めています。この取組については、令和7年度以降も可能な限り継続していきたいと考えています。

つきましては、来年度以降の取組推進のために、野上中学校バスケットボール部に関わる中学生・保護者・教員・指導者の皆様を対象としたアンケート調査を実施いたします。





御多用のところ誠に恐縮ではございますが、下記のQRコードから回答フォームへアクセスいただき、【令和7年 2/2(日)まで】に、質問への御回答をお願いいたします。

記

○調査への回答について

該当するQRコードを読み込み、回答フォームからご回答ください。

※回答可能期間 : 令和7年2月2日(日)まで(既に回答受付中)

中学生の方はこちら→	
教職員の方はこちら→	
地域クラブ指導者の方はこちら→	
保護者の方はこちら→	

【アンケート】

出典:きみのスポーツクラブ作成

参考資料（活動写真）



【指導者と生徒が話し合う様子】



【指導者が生徒に交じり実技指導する様子】



【指導者が指示を送る様子】



【試合を行う様子】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年

6月、紀美野町教育課内で、地域スポーツクラブ活動実施に向けた意見交換を行った。

7月、紀美野町立野上中学校長と地域スポーツクラブ活動実施に向けた意見交換を行った。

令和6年

9月、今までの検討を踏まえ、任意の地域スポーツクラブ活動団体「きみのスポーツクラブ」を紀美野町教育課内に設立した。

専門的な指導者の確保に向け、地域住民(保護者)、大学、スポーツ協会に働きかけた。

令和6年度の活動の反省を踏まえ、実証事業の整備を行い、引き続き、バスケットボール部の活動を行う。

協議会を設置し、事業の整備、拡大に向けた協議を行う。

令和6年

関係者への
ヒアリング

検討開始

活動開始に向
けた調整

地域クラブ活動
の開始

令和7年

活動の整備
協議会の設置

令和8年

地域クラブ活動
の拡大

7月、専門的な指導者が不在である紀美野町立野上中学校バスケットボール部において地域スポーツクラブ活動を実施していく検討を行った。

10月、きみのスポーツクラブ バスケットボール部の活動を実施した。十分な指導者が確保できていなかったため、引き続き、指導者の募集を行った。

バスケットボール部の活動に引き続き、野球部、テニス部、陸上部等の地域移行を行っていく。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	2023年度(R5年度)	2024年度(R6年度)	2025年度(R7年度)	2026年度(R8年度)	目指す姿	
県	協議会の設置、運営			令和8年度までに、各市町村が持続可能な地域クラブ活動の運営体制を整えることができるよう、県の支援体制を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少子化の中でも、子ども達のニーズに応じたスポーツ・文化芸術活動ができる環境を整備し、豊かな人生を送れるような選択肢の提供 ○ 学校部活動を地域・民間に展開し、地域全体のスポーツ・文化芸術振興のチャンスに ○ 学校の働き方改革の推進 	
	学校部活動及び地域クラブ活動の在り方に関する方針作成	学校部活動及び地域クラブ活動の在り方に関する方針周知				
	県協議会での検討内容発信					
	意見交流会の実施(紀北・紀南各地域)					
	好事例研究	好事例紹介				
紀美野町	地域移行の検討	【国費】実証事業の実施		実証事業の拡大		
	施設利用に関する検討					
	地域人材・クラブ団体の掘り起こし					
	クラブ団体指導者への研修の実施					
学校	教師、生徒・保護者のニーズ把握					
	地域クラブ活動への移行拡大					
	地域クラブ活動の学校施設・備品利用についての検討・整備					
クラブ団体	補助金による運営		会費を徴収して自己運営			
	適正な会費、場所や指導者の確保等 運営方法の検証					
	地域人材(指導者)の募集・採用					